

ホームシアターシステム

HTP-06



インターネットによるお客様登録のお願い

<http://www.pioneer.co.jp/support/>

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。
上記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。なお上記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

取扱説明書

安全上のご注意

- 安全にお使いいただくために、必ずお守りください。
- ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△ 記号は注意(警告を含む)しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。



⊘ 記号は禁止(やってはいけないこと)を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



● 記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

警告

異常時の処置



- 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。



- 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置



- 電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- 電源コードの上に重い物をのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。



- 放熱をよくするため他の機器、壁等から間隔をとり、またラックに入れる時はすき間をあけてください。また、次のような使い方や通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
→あおむけや横倒し、逆さまにする。
→押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
→じゅうたんやふとんの上に置く。
→テーブルクロスなどをかける。



● **着脱式の電源コード(インレットタイプ)が付属している場合のご注意:**

付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

使用環境



● この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。



● 風呂場、シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



● 表示された電源電圧(交流100ボルト50/60 Hz)以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



● この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使用方法



● 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物をおかないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



● ぬれた手で(電源)プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。



● 本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。



● 本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。



● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、ひっぱったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店に交換をご依頼ください。



● 雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

注意

設置



● 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。



● 電源プラグは、根元まで差し込んでみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事にコンセントの交換を依頼してください。



● ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



● 本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



● テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。









● 電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。







● 本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

電池

-  ● 本機の上にテレビを置かないでください。放熱や通風が妨げられて、火災や故障の原因となることがあります。(取扱説明書でテレビの設置を認めている機器は除きます。)
-  ● 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
-  ● 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
-  ● 移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。
-  ● 本機の上にテレビやオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。重い場合は、持ち運びは2人以上で行ってください。
-  ● 窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

使用方法

-  ● 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
-  ● 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。
-  ● ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
-  ● 旅行などで長期間ご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



- 電池を機器内に挿入する場合、極性表示(プラス(+))マイナス(-)の向き)に注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



- 長時間使用しない時は、電池を取り出しておいてください。電池から液が漏れて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また万一、漏れた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。



- 電池は加熱したり分解したり、火や水の中に入れてしないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となることがあります。

保守・点検



- 5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行くとより効果的です。なお掃除費用については販売店などにご相談ください。



- お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

- 電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。万一の事故に備え、本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグ（遮断装置）に容易に手が届くように設置してください。



プラグを抜け



- 機器本体のSTANDBY/ONボタンで電源を切っても、電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全のため必ず電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。



プラグを抜け

⚠ 注意

- 表示部が消えていても電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全のため必ず電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。



プラグを抜け

🚫 禁止

- 付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

⚠ 本機の放熱について

- 本機を設置する場合には、壁から10 cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して設置してください。ラックなどに入れるときには、本機の天面から10 cm以上、背面から10 cm以上、側面から10 cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

本機の特徴

1. スピーカーラックシステム (B-06) 専用ホームシアターシステム

本機は、スピーカーラックシステム (B-06) 専用ホームシアターシステムです。専用オプションシステムのため、B-06のフロントスピーカーを使用し、すっきりキレイに省スペースで5.1chサウンドを楽しめます。

2. 5.1チャンネルのレシーバー機能搭載サブウーファー

本機はFM/AMラジオはもちろんのこと、ドルビー^{※1} デジタル、ドルビープロロジックII、DTS^{※2}、MPEG-2 AACなどのデコーダーを搭載しており、本格的な臨場感でサウンドを楽しむことができます。

また様々な臨場感を体感できるアドバンスドサウンドモードも搭載しており、好きな音場で楽しむことができます。

3. 表示部が見やすい大型セパレートディスプレイ装備

セパレートディスプレイは、見やすい場所に、すっきりキレイにセッティングできます。また、操作ボタンが装備されており、リモコンを使わなくても簡単な操作をすることができます。

4. 豊富な入出力端子を装備

お手持ちのDVDレコーダーやDVDプレーヤー、テレビや衛星チューナーの音声を本機を通してサウンドで聞くことができるなど、豊富なデジタル、アナログ入力を装備しています。

5. ワイヤレススピーカーで簡単設置

リアスピーカーは、ワイヤレスで置き場所に悩むことなく、簡単に設置することができます。また「2.4GHzデジタル伝送方式」により、CD並の高音質でのワイヤレス伝送を実現しています。コンパクトなワンボディでありながら、『ダイレクトディフューズ^{※3}』音場技術を搭載することで、よりリアルなサウンドを実現しました。

6. 環境にやさしい設計製品

5.1chレシーバー機能搭載サブウーファー部は、スタンバイ中の消費電力を0.2W以下に抑え、環境に配慮した設計をしています。

- ※1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby, ドルビー, Pro Logic, ダブルD記号及びAACロゴはドルビーラボラトリーズの商標です。
- ※2 DTS及びDTS Digital Surroundは、米国Digital Theater Systems, Inc.の登録商標です。
米国Digital Theater Systems, Inc.の実施権に基づき製造されています。
- ※3 『ダイレクトディフューズ』とは、スピーカーユニットを最適な角度にレイアウトすることで音を天井や壁に反射させ、直接音だけでなく間接音を効果的に利用した臨場感あふれる音場を作り出す当社独自の技術です。

もくじ

1 はじめに

本機の特徴	6
付属品の確認	8
スピーカーに滑り止めパッドを貼る	9
リモコンに電池を入れる	9

2 接続する

本機を接続する	10
電源を入れる	16
スピーカーを設置する	17
プラズマディスプレイなどの 音声を本機で聞くときの接続	18
DVDレコーダーなどの 音声を本機で聞くときの接続	18
コントロール端子の付いている機器と接続する	19
外部アンテナを接続する	19
パイオニアのプラズマディスプレイや DVDレコーダーとの接続例	20

3 各部の名称

ディスプレイユニット	21
表示部	21
リモコン	22
音声の入力を切り換える	23
デジタル入力にする	23
アナログ入力にする	23
テレビコントロール	23
メーカーコードリスト	23
トランスミッター	25
ワイヤレススピーカー	25

4 準備する

デモ表示を解除する	26
ルーム設定をする	27

5 サラウンド再生

サラウンド再生を楽しむ	28
サラウンドモードを選択する	28
アドバンスドサラウンドモードを選択する	30

スピーカー出力レベルを設定する	31
再生している音声で調整する	31
テストトーンで調整する	32
スピーカーの距離を設定する	33

6 ラジオを聞く

放送局を受信する	34
FM放送の雑音を減らす	35
AM放送の雑音を減らす	35
受信した放送局を記憶する	36
記憶した放送局を呼び出す	37
リモコンの数字ボタンで呼び出す	37

7 お好みで音質を調整する

セリフやボーカルを強調して再生する	38
高音と低音を調整する	38
低音を強調する	39
ダイナミックレンジコントロールを設定する	39

8 いろいろな機能を使う

スリープタイマー	40
表示部の明るさをかえる	40
CDタイプの設定	41
デュアルモノの設定	41
設定した内容をお買い上げ時の状態に戻す	42

9 その他

設置する場所	43
製品のお手入れについて	43
故障かな?と思ったら	44
保証とアフターサービス	50
用語解説	51
仕様	52
サービスステーションリスト	54

1

2

3

4

5

6

7

8

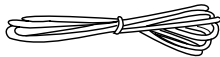
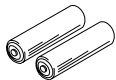
9

付属品の確認

- 保証書は、HTP-06の外箱に貼ってあります。

レシーバーサブウーファー部]

- リモコン × 1
- 単3形乾電池 × 2 (AA/R6P)
- FM 簡易アンテナ × 1
- 光ケーブル × 2 (18、20ページ)

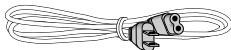


- AM ループアンテナ × 1 (図は組み立てた状態です)

- 同軸ケーブル × 1 (18、20ページ)



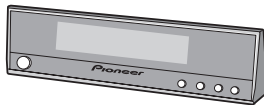
- 電源コード × 1



- ディスプレイケーブル × 1



- ディスプレイユニット × 1



- 取扱説明書

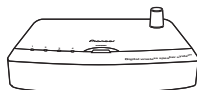
[センタースピーカー部]

- センタースピーカー × 1
- スピーカーコード
- 滑り止めパッド (大) × 4
- 滑り止めパッド (小) × 4
- 4m (赤色のフロントスピーカー右用) × 1
- 4m (白色のフロントスピーカー左用) × 1
- 4m (緑色のセンタースピーカー用) × 1

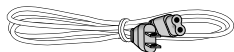


[ワイヤレススピーカー部]

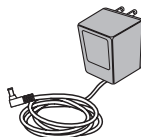
- ワイヤレススピーカー × 1
- トランスミッター × 1
- オーディオコード × 1



- 電源コード × 1



- ACアダプター × 1

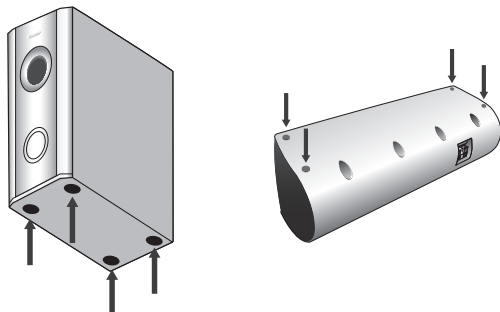


- コーシヨラベル × 1

スピーカーに滑り止めパッドを貼る

1. レシーバーサブウーファーとセンタースピーカーの底面の角4カ所に滑り止めパッドを貼り付ける

レシーバーサブウーファーには滑り止めパッド(大)を、センタースピーカーには滑り止めパッド(小)を貼り付けます。

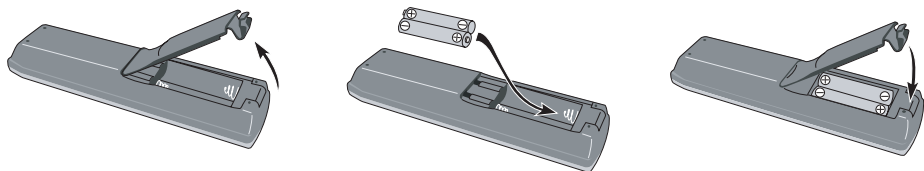


リモコンに電池を入れる

矢印の方向に、裏ボタンを開く

ケース内に表記されている極性に合わせて、乾電池を入れる

裏ボタンを矢印の方向に閉める



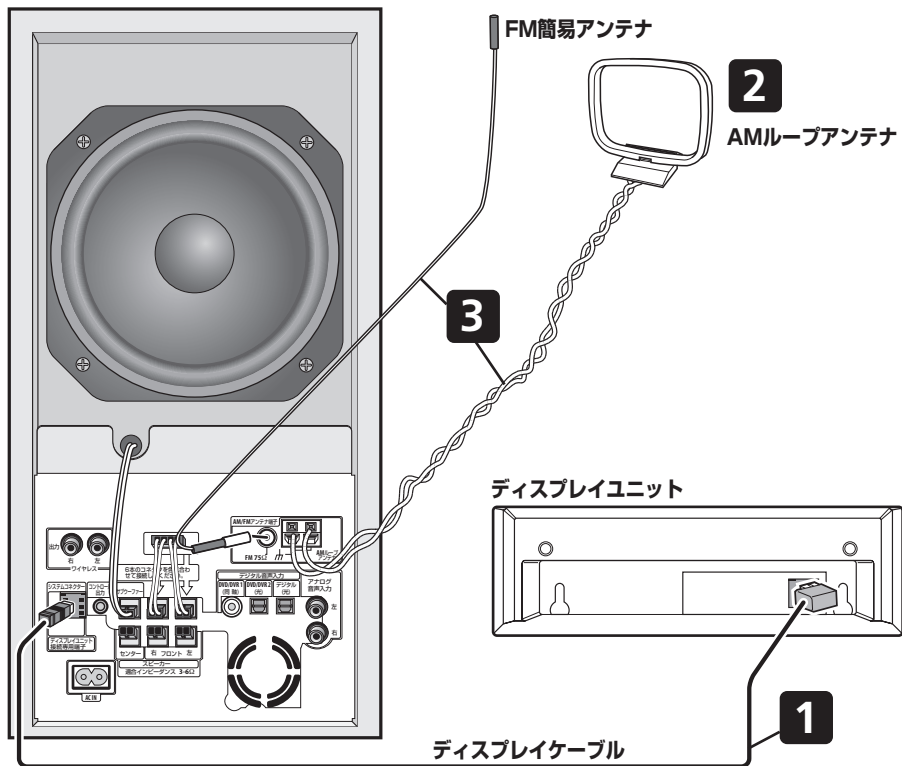
- ◆ 乾電池のプラス ⊕ とマイナス ⊖ の向きを電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
- ◆ 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- ◆ 乾電池には同じ形状でも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- ◆ 長い間(1か月以上)使用しないときは電池の液漏れを防ぐために電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- ◆ 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示(条例)に従って処理してください。

本機を接続する



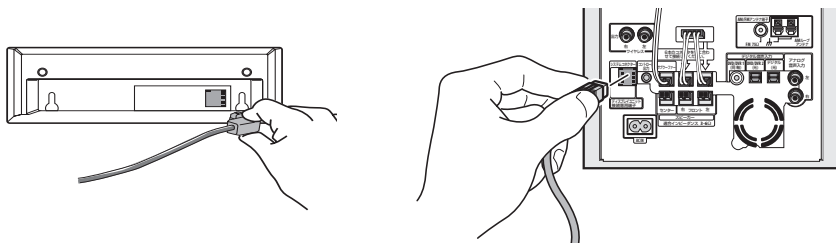
接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源コードを抜いてください。
また、電源コードはすべての接続が終わってから壁のコンセントに接続してください。

レシーバーサブウーファー



1. レシーバーサブウーファーとディスプレイユニットを接続する

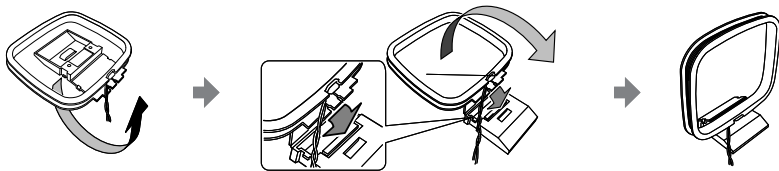
ディスプレイケーブルのL形プラグをディスプレイユニットと接続します。
次に、ディスプレイケーブルのもう片方をレシーバーサブウーファーのシステムコネクター端子（ディスプレイユニット接続専用端子）に接続します。



2. AMループアンテナを組み立てる

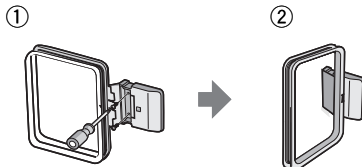
AMループアンテナのコードは、ねじれている部分や台に巻き付いて固定されている部分まで、ほどかないで組み立てます。

- ① 台を外側に出します。 ② 突起部を溝にはめます。 ③ 完成



壁に取り付けるには....

市販のネジや押しピンなどを使って壁に取り付けてから組み立てます。



3. AMループアンテナとFM簡易アンテナを接続する

① AMループアンテナ接続端子のツメを押しながら、AMループアンテナのコードを端子に差し込みます。

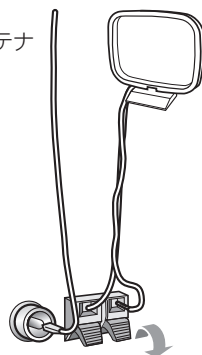
どちらをアース側の端子(⚡)につないでもかまいません。ただし、受信している状態で雑音が多いときは、接続を逆にすると改善されることがあります。コードを差し込んだらツメから指を離します。

② FM簡易アンテナは、中央のピンに差し込んでください。

FM簡易アンテナは、たらししておいたり、丸めたままにしないで最も良い受信状態が得られるように、ピンと張ってください。

AMループアンテナ

FM簡易アンテナ

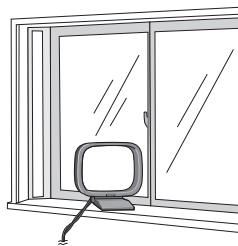


メモ

- ▼ AMアンテナ端子のアースマーク(⚡)はアンテナを接続した場合の雑音低減をはかるためのものです。安全アースではありません。
- ▼ アンテナは本機やディスプレイユニット、または各接続ケーブルから離れた場所に置いてください。

AM ループアンテナ :

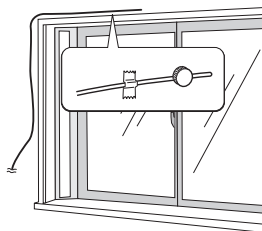
- 平らな面に置き、受信状態の最も良い方向に向けてください。
- アンテナは、本機やケーブル類から離して金属物と接触しない場所に置いてください。また、パソコン、テレビなどからもできるだけ離してください。ノイズの原因となります。
- 壁などに取り付ける場合は、AM放送の受信状態が最も良い方向を見つけ、取り付け位置を決めてください。



- できるだけ窓の近くに置くなど、置く位置や向きを変えて受信しやすい状態を探してください。

FM 簡易アンテナ :

- 付属のFM簡易アンテナは、たらししておいたり、丸めたままにしないでピンと張ってください。
- 受信状態の良い方向が決まったら、画びょうやテープで貼り付けます。



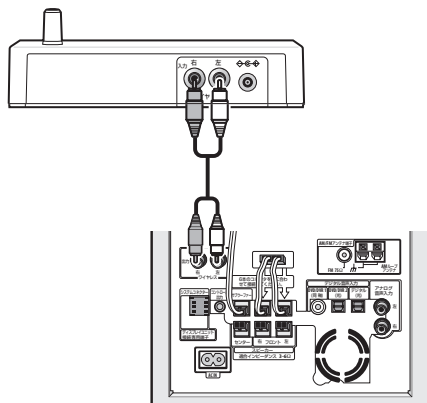
- 付属のFM簡易アンテナは、FM放送を手軽に受信するためのものです。より良い受信のためには、市販の屋外アンテナの使用をお勧めします。(19 ページ)

メモ

- ▼ 付属のアンテナで よく聞こえないときは、35 ページの「FM 放送の雑音を減らす」や「AM 放送の雑音を減らす」を参照して操作するか、19 ページを参照して外部アンテナを接続します。

4. トランスミッターと接続する

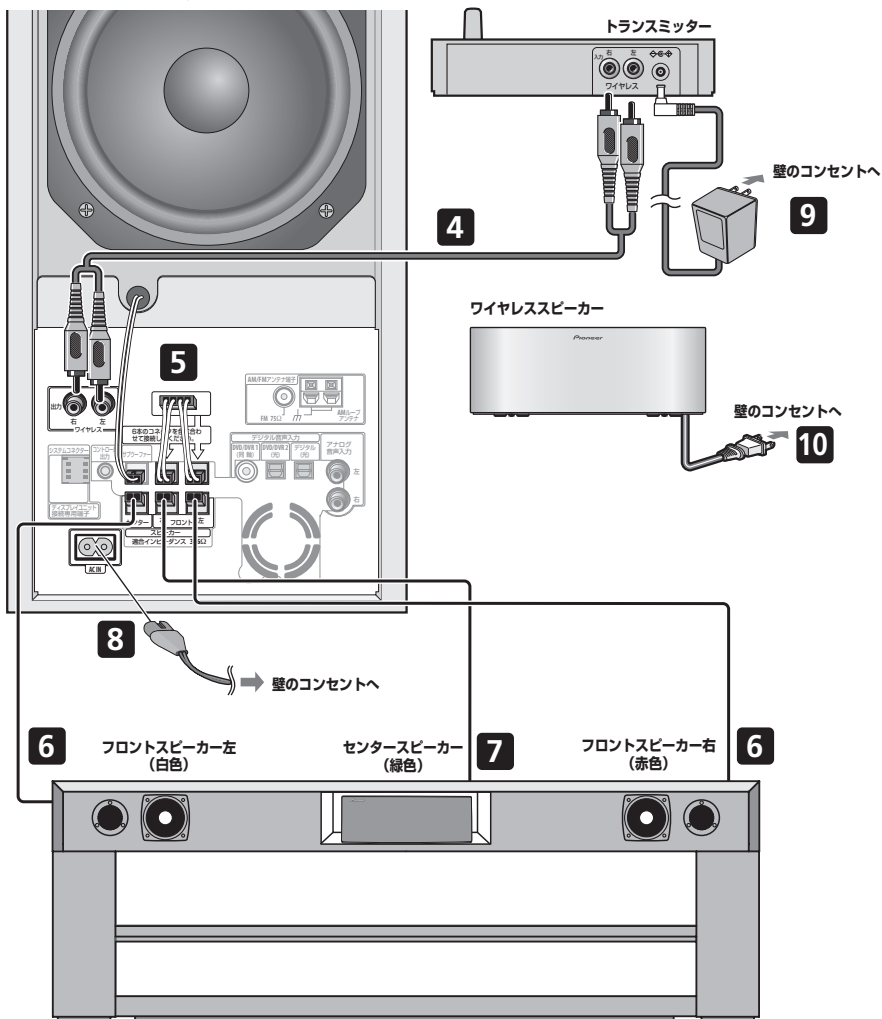
付属のオーディオコード（赤と白のプラグ）をレシーバーサブウーファのワイヤレス出力端子に接続します。次に、オーディオコード（赤と白のプラグ）の反対側をトランスミッターの入力端子（ワイヤレス入力）に接続します。



メモ

- ▼ 本機のワイヤレス出力端子は、専用端子になっています。トランスミッターの入力端子以外には接続しないでください。

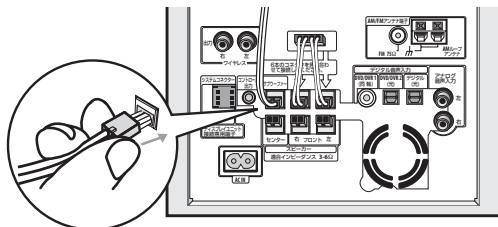
レシーバーサブウーファー



スピーカーラックシステム (B-06)

5. レシーバーサブウーファースのプラグを接続する

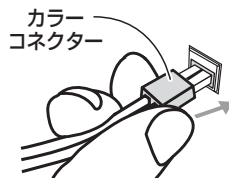
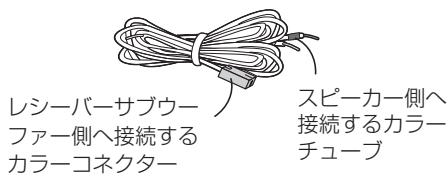
レシーバーサブウーファー本体から出ている線材のコネクターを、それぞれの色と同じスピーカー端子に接続します。



6. スピーカーラックシステム(B-06)を接続する

レシーバーサブウーファースのスピーカー端子のフロント(右)に、スピーカーコードの赤色のコネクターを差し込み、フロント(左)にはスピーカーコードの白色のコネクターを差し込みます。

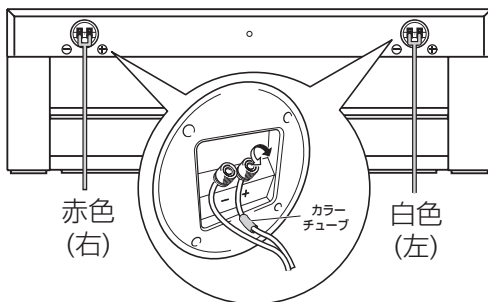
スピーカーコード



- ① カラーコネクターが付いていない方の先端の被覆は、ねじりながら引き抜きます。



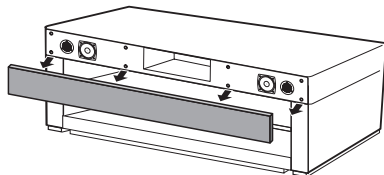
- ② スピーカーの端子については、ネジをゆるめ、コードの先端を穴に差し込んでからネジをしめます。スピーカーコードのカラーチューブのある方を端子の⊕側(赤)に、カラーチューブのない方を⊖側(黒)に接続します。



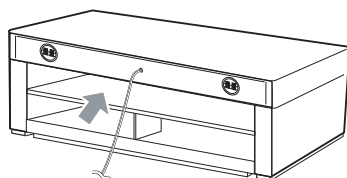
7. センタースピーカー(S-B06C)を接続する

センタースピーカーをラックの中に入れて使います。スピーカーラックシステムB-06に付属の取扱説明書も、あわせてご覧ください。

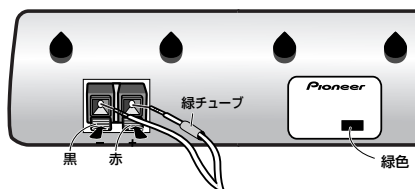
- ① レシーバーサブウーファーのスピーカー端子のセンターに、スピーカーコードの緑色のコネクタを差し込みます。
- ② グリルネットを取り外します。



- ③ 後面中央の穴からスピーカーコードを 30cm 程度差し込みます。



- ④ スピーカーコードを前面から引き出して、センタースピーカーに接続します。



スピーカーコードのカラーチューブのある方を端子の⊕側(赤)に、カラーチューブのない方を⊖側(黒)に接続します。

- ⑤ センタースピーカーをセンタースピーカー収納部に置き、グリルネットを取り付けます。
センタースピーカーは、センタースピーカー収納部の手前(グリルネット側)に設置してください。

メモ

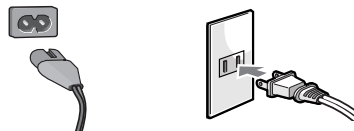
- ▼ 本機のスピーカーを他のアンプに接続しないでください。故障や火災の原因になることがあります。
- ▼ 付属のセンタースピーカー、およびスピーカーラックシステム以外は本機に接続しないでください。故障や火災の原因になることがあります。
- ▼ 端子に接続した後、コードを軽く引いて、コードの先端が端子へ確実に接続されていることを確認してください。接続が不完全だと音かとぎれたり、雑音のでる原因となります。
- ▼ コードの芯線がはみ出して、芯線どうしが触れたりするとアンプに過大な負荷が加わって音が出なくなったり、電源がオフになることがあります。
- ▼ アンプと接続したとき、スピーカーシステム極性(⊕、⊖)を間違えて接続すると、正常なステレオ効果やサラウンド効果を得ることができません。

8. 電源コードをレシーバーサブウーファーと壁のコンセントに差し込む

電源コードを本体のACインレット (AC IN) に差し込み、電源コードのプラグ部を壁のコンセントに接続します。

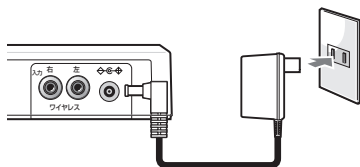
はじめて電源コードをコンセントにつないだ時はデモモードになります。デモモードを表示したくない場合は、26ページ「デモ表示を解除する」をご覧ください。

ACインレット



9. ACアダプターをトランスミッターと壁のコンセントに差し込む

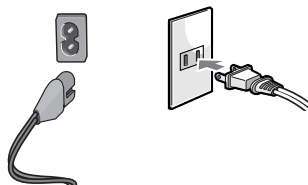
ACアダプターをトランスミッターのDC電源入力端子に接続してから壁のコンセントへ接続します。



ACアダプター

10. ワイヤレススピーカーの電源コードをワイヤレススピーカーと壁のコンセントに差し込む

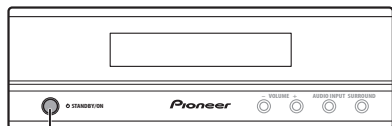
電源コードをワイヤレススピーカーのACインレット (AC IN) に差し込み、電源コードのプラグ部を壁のコンセントに接続します。



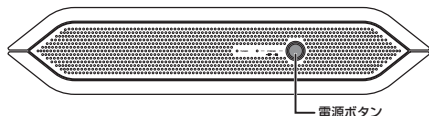
電源を入れる

ディスプレイユニットの **o** STANDBY/ON ボタンか、リモコンの **o** レシーバーボタンを押して電源をONにします。

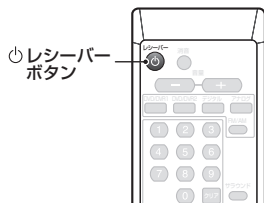
次に、ワイヤレススピーカーの電源ボタンを押して電源をONにします。



o STANDBY/ONボタン



電源ボタン



o レシーバーボタン

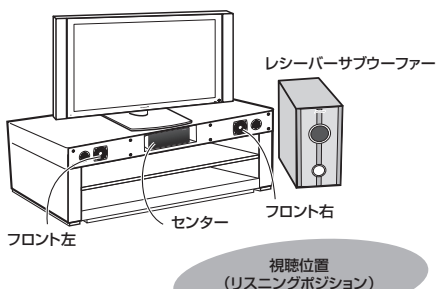
メモ

- ▼ 本システムを使用しないときは、ワイヤレススピーカーの電源はオフにしておいてください。

スピーカーを設置する

サラウンド効果を最大限に引き出すため、下の図のようにワイヤレススピーカーを設置してください。

- ワイヤレススピーカーを視聴位置(リスニングポジション)から極端に離して設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されません。サラウンド効果が不十分なときは「スピーカー出力レベルを設定する」(31ページ)をご覧ください。SR(サラウンド右)、SL(サラウンド左)チャンネルのレベルを調整してください。とくにワイヤレススピーカーを床に設置しているときは、チャンネルレベルの調整が効果的です。
- ワイヤレススピーカーは視聴位置(リスニングポジション)の真後ろ(中央)の床に設置してください。また、ワイヤレススピーカーは耳の高さよりも下に設置することをお勧めします。耳の高さより上にワイヤレススピーカーを設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されないことがあります。
- 本機のセンタースピーカーは防磁設計ですので、ブラウン管テレビと組み合わせても色むらが起こりにくくなっています。まれに設置のしかたによっては色むらを生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15～30分後再びスイッチを入れてください。その後も色むらが残るようでしたらテレビの位置を変えてみてください。
- 本機のサブウーファーとワイヤレススピーカーは、テレビとの近接使用ができませんのでテレビから離してご使用ください。また、磁気に影響のある製品や機器(フロッピーディスクやビデオ、カセットテープなど)からも離してお使いください。近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、相互作用によりテレビに色むらが発生する場合がありますので、設置にご注意ください。
- センタースピーカー、ワイヤレススピーカー、サブウーファーを壁に掛けたり、天井に吊るしたりして使用しないでください。スピーカーが落下してケガをしたり、スピーカーを破損する原因となります。



メモ

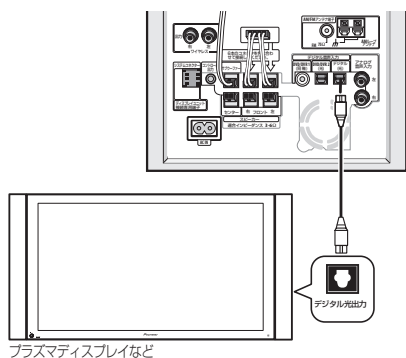
- ▼ 使用中に電波の状態によって、音が途切れたり出なくなったりすることがありますが故障ではありません。トランスミッターまたはワイヤレススピーカーの位置や方向を変えてみてください。
- ▼ トランスミッターとワイヤレススピーカーの距離は約10mまで使用可能です。この距離は使用環境により異なりますので、10mを保証するものではありません。
- ▼ トランスミッターとワイヤレススピーカーが近すぎると受信状態が不安定になる場合があります。このような場合には、トランスミッターとワイヤレススピーカーを1m以上離してお使いください。
- ▼ トランスミッターとワイヤレススピーカーの間に障害物(金属製のドアやコンクリート壁、アルミ箔入りの断熱材など)があると、電波を遮ってしまい音が出なくなることがあります。その場合はトランスミッターとワイヤレススピーカーを互いに見通しの良い場所に設置してください。

プラズマディスプレイなどの 音声を本機で聞くときの接続

プラズマディスプレイなどを本機に接続して、その音声をサラウンドで楽しむことができます。

本機のデジタル入力端子と、接続したいプラズマディスプレイの光出力端子とを、付属の光ケーブルで接続する

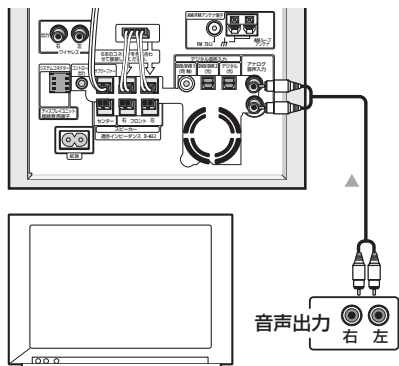
- 接続するプラズマディスプレイなどの取扱説明書もあわせてご覧ください。



プラズマディスプレイなど

尚、接続したテレビに光出力端子がない場合は、本機の **アナログ音声入力端子**と、接続したいテレビの音声出力端子とを、市販のオーディオコード（ピンプラグ付接続コード）で接続します。

- アナログ音声入力端子には、テレビ以外のアナログソース機器も接続できます。

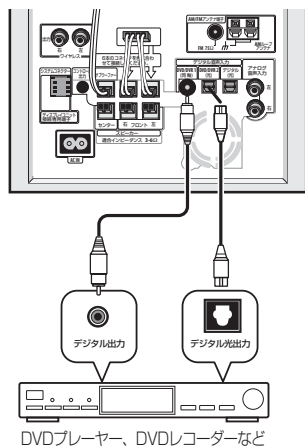


DVDレコーダーなどの 音声を本機で聞くときの接続

本機には、光デジタル入力端子(DVD/DVR2、デジタル)が2系統、同軸デジタル入力端子(DVD/DVR1)が1系統の計3系統のデジタル入力端子があります。DVDレコーダー、DVDプレーヤー、BS/CSデジタルチューナーなどの機器と接続し、映画などを5.1chサラウンドで楽しむことができます。

接続したい機器のデジタル出力端子と、本機のDVD/DVR1同軸入力端子、DVD/DVR2光入力端子のいずれかをと付属の光ケーブル、または同軸ケーブルで接続する

- それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

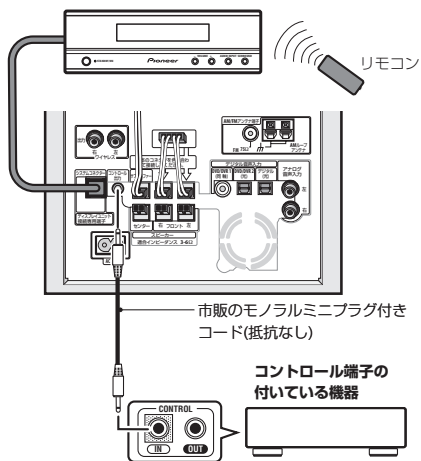


DVDプレーヤー、DVDレコーダーなど

コントロール端子の付いている機器と接続する

コントロール端子の付いたパイオニア機器と接続すると、本機のディスプレイユニットにリモコンを向けて接続した機器を操作することができます。

これにより、リモコン受光部がない機器やリモコン受光部が信号を受けられない場所に設置した機器も操作することができます。



コントロール端子の接続をするときは、必ずアナログ音声ケーブルかデジタル同軸ケーブルも接続してください。光デジタルケーブルの接続だけでは、システムコントロールは正しく動作しません。

メモ

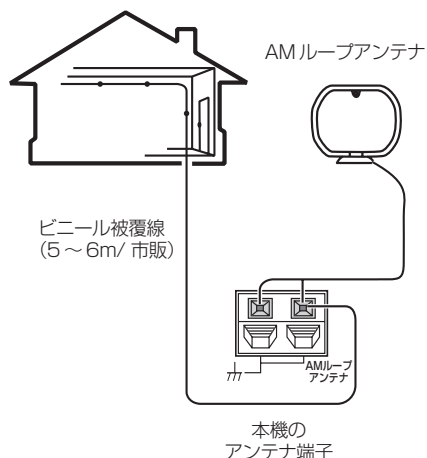
- ▼ 接続には市販のモノラルミニプラグ付きコード(抵抗なし)を使用してください。
- ▼ コントロール入力端子(CONTROL IN)にプラグを接続した機器のリモコン受光部は機能しません。

外部アンテナを接続する

付属のAMループアンテナやFM簡易アンテナでは放送局がよく聞こえないときは、市販の外部アンテナを接続してください。

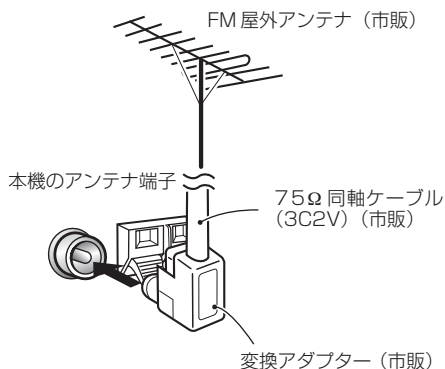
AM外部アンテナをつなぐ

- AM外部アンテナ（市販のビニール被覆線）を下図のように接続してください。



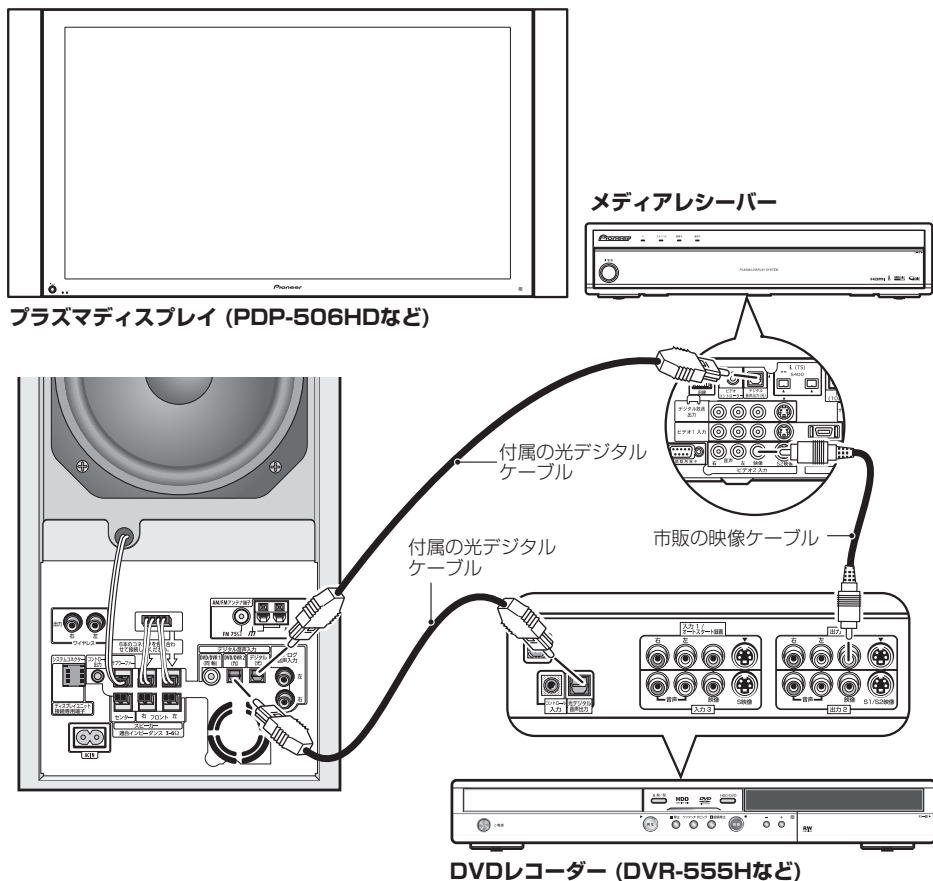
FM屋外アンテナをつなぐ

- 市販のFM屋外アンテナを接続するには、市販の同軸ケーブルと変換アダプターを使って、下図のように接続してください。



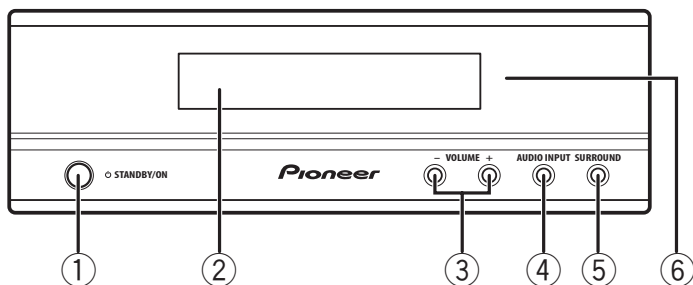
パイオニアのプラズマディスプレイやDVDレコーダーとの接続例

下記の接続例を参考にして、DVDレコーダーの接続を行ってください。詳細については、18ページを参照してください。また、各機器の電源を入れる前に映像信号の接続(DVDプレーヤーとテレビとの接続など)も行ってください。接続については、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



- ケーブルは急な角度に折り曲げないでください。
- 端子の向きを合わせて差し込んでください。

ディスプレイユニット

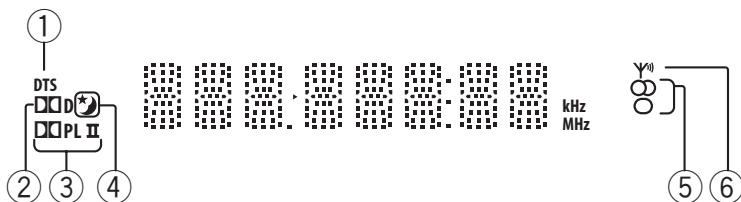


- ① **STANDBY/ONボタン(16ページ)**
電源をONにしたり、スタンバイモードにします。
- ② **表示窓**
- ③ **VOLUMEボタン**
音量を調節します。
- ④ **AUDIO INPUTボタン**
入力機器を切り換えます。
- ⑤ **SURROUNDボタン(29ページ)**
サラウンドモードの設定や調整を行います。
- ⑥ **リモコン受光部**
約7m左右30°以内の距離から、ここにリモコンを向けて操作します。

メモ

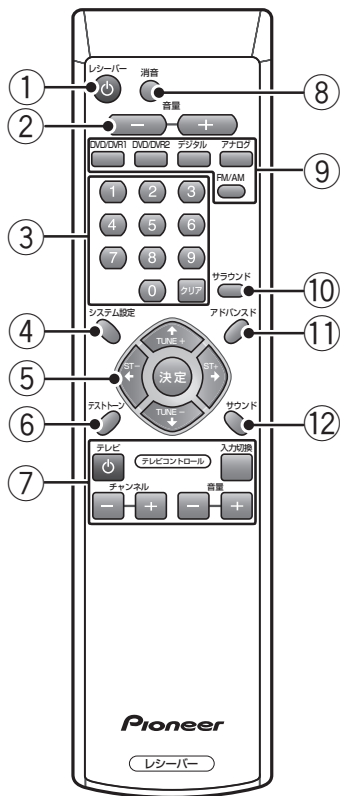
- ▼ 直射日光や蛍光灯の強い光が直接リモコン受光部に当たると、リモコン操作できないことがあります。そのようなときは、設置場所を変えるか、蛍光灯から離してください。

表示部



- ① DTS信号を再生しているときに点灯します。
- ② ドルビーデジタル信号を再生しているときに点灯します。
- ③ ドルビープロロジック II 処理が行われているときに点灯します。(28ページ)
- ④ スリープタイマー設定時に点灯します。(40ページ)
- ⑤ FM放送の受信設定をモノラルに設定すると○が点灯します。(35ページ)
FM放送でステレオ受信していると、∞が点灯します。
- ⑥ FM/AM放送受信時に点灯します。

リモコン



① レシーバーボタン (16 ページ)

② 音量ボタン

③ 数字/クリアボタン

④ システム設定ボタン

各種システム設定を行います。

⑤ ↑ ↓ ⇐ ⇒ /決定ボタン

項目の選択や変更や設定画面で、カーソルを上下左右に移動し、決定ボタンで決定するときを使用します。

TUNE + / - ボタン (34 ページ)

ラジオの放送局を受信するときを使用します。

ST + / - ボタン (36 ページ)

ラジオでステーション(記憶番号)を選ぶときに使用します。

⑥ テストトーンボタン (32 ページ)

⑦ テレビコントロール (23 ページ)

テレビボタン

テレビの電源を入れます。

テレビ入力切換ボタン

テレビのライン入力を切り換えます。

テレビチャンネルボタン

テレビのチャンネルを変更します。

テレビ音量ボタン

テレビの音量を調整します。

⑧ 消音ボタン

音を一時的に消す(ミュートする)ときに押します。もう一度押すとミュートは解除され、消音する前の音量に戻ります。

⑨ DVD/DVR1 ボタン

入力をDVD/DVR1 同軸入力端子に接続した機器に切り換えます。

DVD/DVR2 ボタン

入力をDVD/DVR2の光入力端子に接続した機器に切り換えます。

デジタルボタン

入力をデジタル光端子に接続した機器に切り換えます。

アナログボタン

入力をアナログ音声入力端子に接続した機器に切り換えます。

FM/AM ボタン

ラジオを聞いたり、FM局とAM局を切り換えます。

⑩ サラウンドボタン (29 ページ)

⑪ アドバンスボタン (30 ページ)

⑫ サウンドボタン (38 ページ)

サウンドモードの設定や調整を行うときに使用します。

音声の入力を切り換える

本機には、光デジタル入力端子(DVD/DVR2、デジタル)の2系統、同軸デジタル入力端子(DVD/DVR1)が1系統の計3系統のデジタル入力端子と、アナログ音声入力端子が1系統あります。

デジタル入力にする

- 1 接続した端子名と同じ名前の入力ボタンを押す



アナログ入力にする

- 1 アナログ ボタンを押す




メモ

- ▼ マルチチャンネル(5.1ch)再生にしたいときは、リスニングモードを**5.1ch**に切り換えてください。(28～30ページ)

テレビコントロール

お使いのテレビのメーカーを本機のリモコンに設定して、お使いのテレビを操作することができます。

1.  クリアボタンを押しながら、3桁のメーカーコード(下記)を数字ボタンで入力する
2. テレビが操作できるか確認する

1つのメーカーに複数のコードがあるときは、操作できるまで順にコードを設定してください。

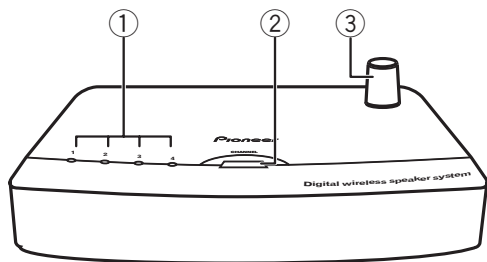
メーカーコードリスト

パイオニア	600(お買い上げ時の設定), 631, 632, 607, 636, 642, 651
アイワ	660
NEC	659
サンヨー	635, 645, 648, 621, 614
シャープ	602, 619, 627
ソニー	604
東芝	605, 602, 626, 621, 653
日立	631, 633, 634, 636, 642, 643, 654, 606, 610, 624, 625, 618
ビクター	613
富士通	648, 649
FUNAI	640, 646, 658
松下	631, 607, 608, 642, 622
三菱	609, 610, 602, 621, 631

その他のメーカーのコードについては、次ページを参照してください。

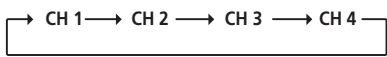
- ACURA, 644
ADMIRAL, 631
AKAI, 632, 635, 642
AKURA, 641
ALBA, 607, 639, 641, 644
AMSTRAD, 642, 644, 647
ANITECH, 644
ASA, 645
ASUKA, 641
AUDIOGONIC, 607, 636
BASIC LINE, 641, 644
BAUR, 631, 607, 642
BEKO, 638
BEON, 607
BLAUPUNKT, 631
BLUE SKY, 641
BLUE STAR, 618
BPL, 618
BRANDT, 636
BTC, 641
BUSH, 607, 641, 642, 644, 647, 656
CASCADE, 644
CATHAY, 607
CENTURION, 607
CGB, 642
CIMLINE, 644
CLARIVOX, 607
CLATRONIC, 638
CONDOR, 638
CONTEC, 644
CROSLEY, 632
CROWN, 638, 644
CRYSTAL, 642
CYBERTRON, 641
DAEWOO, 607, 644, 656
DAINICHI, 641
DANSAI, 607
DAYTON, 644
DECCA, 607, 648
DIXI, 607, 644
DUMONT, 653
ELIN, 607
ELITE, 641
ELTA, 644
EMERSON, 642
ERRES, 607
FERGUSON, 607, 636, 651
FINLANDIA, 635, 643, 655
FINLUX, 632, 607, 645, 648, 653, 654, 655
FIRSTLINE, 640, 644
FISHER, 632, 635, 638, 645
FORMENTI, 632, 607, 642
FRONTECH, 631, 642, 646
FRONTECH/PROTECH, 632
GBC, 632, 642
GE, 601, 608, 607, 610, 617, 602, 628, 618
GEC, 607, 634, 648
GELOSO, 632, 644
GENEXXA, 631, 641
GOLDSTAR, 610, 623, 621, 602, 607, 650
GOODMANS, 607, 639, 647, 648, 656
GORENJE, 638
GPM, 641
GRAETZ, 631, 642
GRANADA, 607, 635, 642, 643, 648
GRADIENTE, 630, 657
GRANDIN, 618
GRUNDIG, 631, 653
HANSEATIC, 607, 642
HCM, 618, 644
HINARI, 607, 641, 644
HISAWA, 618
HUANYU, 656
HYPSON, 607, 618, 646
ICE, 646, 647
IMPERIAL, 638, 642
INDIANA, 607
INGELEN, 631
INTERFUNK, 631, 632, 607, 642
INTERVISION, 646, 649
ISUKAI, 641
ITC, 642
ITT, 631, 632, 642
JEC, 605
JVC, 613, 623
KAISUI, 618, 641, 644
KAPSCH, 631
KENDO, 642
KENNEDY, 632, 642
KORPEL, 607
KOYODA, 644
LEYCO, 607, 640, 646, 648
LIESEN&TTER, 607
LOEWE, 607
LUXOR, 632, 642, 643
M-ELECTRONIC, 631, 644, 645, 646, 655, 656, 607, 636, 651
MAGNADYNE, 632, 649
MAGNAFON, 649
MAGNAVOX, 607, 610, 603, 612, 629
MANESTH, 639, 646
MARANTZ, 607
MARK, 607
MATSUI, 607, 639, 640, 642, 644, 647, 648
MCMICHAEL, 634
MEDIATOR, 607
MEMOREX, 644
METZ, 631
MINERVA, 631, 653
MULTITECH, 644, 649
NECKERMANN, 631, 607
NEI, 607, 642
NIKKAI, 605, 607, 641, 646, 648
NOBLIKO, 649
NOKIA, 632, 642, 652
NORDMENDE, 632, 636, 651, 652
OCEANIC, 631, 632, 642
ORION, 632, 607, 639, 640
OSAKI, 641, 646, 648
OSO, 641
OSUME, 648
OTTO VERSAND, 631, 632, 607, 642
PALLADIUM, 638
PANAMA, 646
PATHO CINEMA, 642
PAUSA, 644
PHILCO, 632, 642
PHILIPS, 631, 607, 634, 656
PHOENIX, 632
PHONOLA, 607
PROFEX, 642, 644
PROTECH, 607, 642, 644, 646, 649
QUELLE, 631, 632, 607, 642, 645, 653
R-LINE, 607
RADIOLA, 607
RADIOSHACK, 610, 623, 621, 602
RBM, 653
RCA, 601, 610, 615, 616, 617, 618, 661, 662, 609
REDIFFUSION, 632, 642
REX, 631, 646
ROADSTAR, 641, 644, 646
SABA, 631, 636, 642, 651
SAISHO, 639, 644, 646
SALORA, 631, 632, 642, 643
SAMBERS, 649
SAMSUNG, 607, 638, 644, 646
SBR, 607, 634
SCHAUB LORENZ, 642
SCHNEIDER, 607, 641, 647
SEG, 642, 646
SEI, 632, 640, 649
SELECO, 631, 642
SIAREM, 632, 649
SIEMENS, 631
SINUDYNE, 632, 639, 640, 649
SKANTIC, 643
SOLAVOX, 631
SONOKO, 607, 644
SONOLOR, 631, 635
SONTEC, 607
SOUNDWAVE, 607
STANDARD, 641, 644
STERN, 631
SUSUMU, 641
SYSLINE, 607
TANDY, 631, 641, 648
TASHIKO, 634
TATUNG, 607, 648
TEC, 642
TELEAVIA, 636
TELEFUNKEN, 636, 637, 652
TELETECH, 644
TENSAI, 640, 641
THOMSON, 636, 651, 652, 663
THORN, 631, 607, 642, 645, 648
TOMASHI, 618
TOWADA, 642
ULTRAVOX, 632, 642, 649
UNIVERSUM, 631, 607, 638, 642, 645, 646, 654, 655
VESTEL, 607
VOXSON, 631
WALTHAM, 643
WATSON, 607
WATT RADIO, 632, 642, 649
WHITE
WESTINGHOUSE, 607
YOKO, 607, 642, 646
ZENITH, 603, 620

トランスミッター



① チャンネルインジケーター
②のチャンネル選択ボタンによって選択された周波数チャンネルが点灯します。

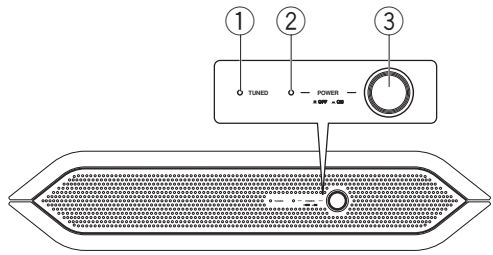
② チャンネル選択ボタン
ワイヤレススピーカーへ送信する信号を4つの周波数チャンネルから選択します。ワイヤレススピーカーの受信状態が良くないときは、周波数チャンネルを変えることで受信状態が良くなる場合があります。押すたびに以下のように切り換わります。



③ アンテナ
ワイヤレススピーカーへ音声信号を送信します。

ワイヤレススピーカー

上面部



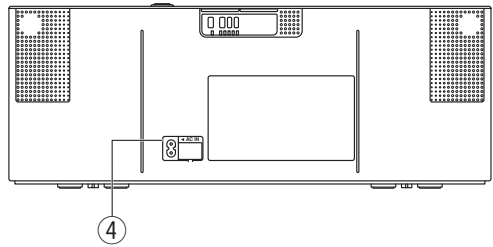
① TUNEDインジケーター
トランスミッターからの信号を受信しているときに点灯します。

② POWERインジケーター
ワイヤレススピーカーの電源をオンにしているときに点灯します。

③ 電源ボタン
ワイヤレススピーカーの電源をオン/オフします。

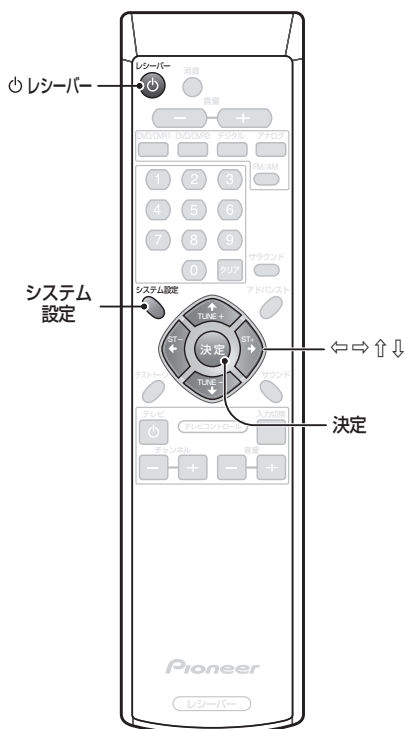
④ ACインレット
付属の電源コードを差し込みます。

背面部



メモ

▼ ワイヤレススピーカーのアンテナは内蔵されています。



デモ表示を解除する

電源コードをコンセントに差し込んだときなど、表示部にいろいろな表示を自動的に行うことを、デモ表示といいます。

1. 電源がオンのときは、レシーバーボタンを押して電源をオフにする



2. システム設定ボタンを押す



3. $\leftarrow \rightarrow$ で "DEMO" にしてから決定ボタンを押す



DEMO

4. $\uparrow \downarrow$ で "DEMO OFF" にしてから決定ボタンを押す



DEMO OFF

電源がオフになりデモ表示が解除されます。再びデモ表示を設定する場合は、"DEMO ON" にします。

メモ

- ▼ デモ表示を解除した場合でも、電源コードを抜いたり停電した状態が長時間続くと、再度電源コードをコンセントに差したり通電が再開したときに、デモ表示をする場合があります。

ルーム設定をする

視聴位置のすぐそばに置いたスピーカーと遠いところに置いたスピーカーとでは、そのスピーカーから聴こえる音のタイミングや大きさにズレが生じ、適切なサラウンド効果を得ることができません。ここでは3つのサイズ（S、M、L）の中からご自分の部屋に近いサイズを選び、さらに FWD、MID、BACK の中からご自分のリスニングポジションに近い設定を選ぶだけで、簡単に適切なサラウンド効果を得ることができます。

1. **電源がオフのときは、レシーバーボタンを押して電源をオンにする**



2. **システム設定ボタンを押す**



3. **← → で "ROOM SET" にしてから決定ボタンを押す**

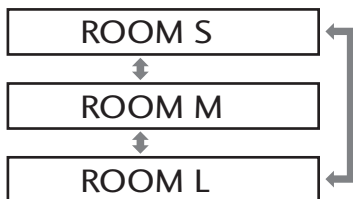


ROOM SET

4. **↑ ↓ で部屋のサイズを選んで決定ボタンを押す**



部屋のサイズの目安は **S** が約 6 畳、**M** が約 12 畳、**L** が約 18 畳です。↑ ↓ を押すたびに以下のように切り換わります。



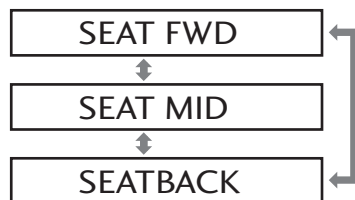
5.

↑ ↓ でリスニングポジションを選んで決定ボタンを押す



リスニングポジションが、フロントスピーカーに近いときは **SEAT FWD** を、すべてのスピーカーからほぼ等距離のときは **SEAT MID** を、サラウンドスピーカーに近いときは **SEAT BACK** を選びます。

↑ ↓ を押すたびに以下のように切り換わります。



メモ

▼ 「ルーム設定」は、選んだサイズとリスニングポジションに合わせて、以下の項目を自動で設定する機能です。

- 各スピーカー出力レベル (31 ページ)
- 各スピーカーまでの距離 (33 ページ)

これらの項目の設定とルーム設定では、後から行った設定の値が優先されます。

サラウンド再生を楽しむ

サラウンド再生は、サラウンド/アドバンスサラウンドの中からひとつだけ選択することができます。ただし、88.2/96kHzリニアPCM信号を再生しているときは、STEREO(ステレオ)に固定され、切り換えることができません。

サラウンドモード：

ドルビーデジタルやDTSなどの標準的なデコードを行うほか、ステレオダウンミックスモード、入力ソースに記録されているチャンネル数に合わせて自動でモードを切り換えるオートモードがあります。ステレオソースのときはドルビープロロジックIIモードも選べます。

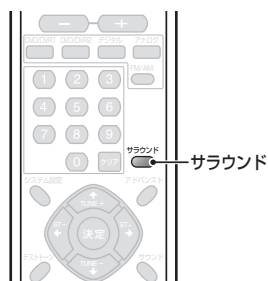
アドバンスサラウンドモード：

映画や音楽などソフトのジャンルに合った音響効果で楽しめるパイオニアオリジナルのサラウンドモードです。

サラウンドモードを選択する

サラウンドモードは以下の中から選びます。お聴きになるソフトのジャンルに合わせて選択してください。

- **AUTO (オート) 2.1ch 5.1ch**
CDなどステレオで収録されている音声はステレオで、DVDなどマルチチャンネルで収録されている音声は、記録されたチャンネルに応じたスピーカーから音を出して再生します。
- **PRO LOGIC (ドルビープロロジック) 5.1ch**
従来のドルビープロロジックと同等の再生モードです。特にドルビーサラウンドエンコード作品をこのモードで視聴すると効果的です。
- **MOVIE (ドルビープロロジックII ムービー) 5.1ch**
5.1ch化します。映画再生に適したモードで、特にドルビーサラウンドエンコード作品をこのモードで視聴するとより効果的です。サラウンドチャンネルへのダイアログの漏れ込み(クロストーク)を聞こえにくくする処理などもあり、ドルビーデジタル5.1に迫るセパレーションや移動感などが得られます。
- **MUSIC (ドルビープロロジックII ミュージック) 5.1ch**
5.1ch化します。音楽再生に適したモードで、通常のステレオ録音されたソース(CDなど)を再生するときに効果的です。サラウンドチャンネルは定位よりも包囲感を重視しています。
- **STEREO (ステレオ) 2.1ch**
あらゆる入力信号についてステレオ再生(左右2つのフロントスピーカーとサブウーファースのみによる再生)します。

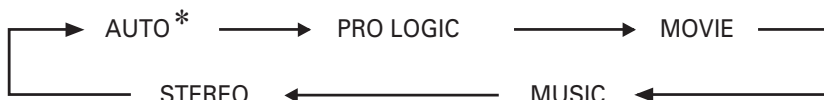


1. **サラウンド** サラウンドボタンを押して好みのサラウンドを選ぶ
 押すたびに、以下のように切り換わります。

メモ

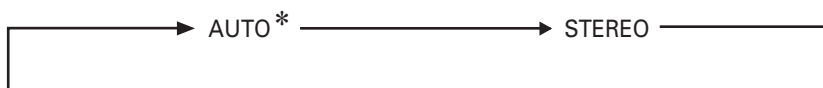
- ▼ サラウンドモード表示中に \updownarrow ボタンを押して切り換えることもできます。

■ 2チャンネル信号 (PCM(CD 音声)など) を再生している場合



- * AUTOは、音声フォーマットに応じたサラウンドモードに自動で切り換わります。

■ マルチチャンネル信号を再生している場合



- * 各音声フォーマット(Dolby Digital/ DTS/ MPEG-2 AAC)に応じて、忠実にデコードして再生します。

Q&A

Q : ワイヤレススピーカーやセンタースピーカーから音が出ない! または、音が小さくて物足りない!

- サラウンドボタンまたはアドバンスボタンを押して、各モードをお試しください。
- 31 ページの「スピーカー出力レベルを設定する」を参照して、各スピーカーからの再生音を調整してください。

アドバンスサラウンドモードを選択する

フロントスピーカーに加え、センタースピーカーやワイヤレススピーカーも使い、パイオニアオリジナルのサラウンド効果を加えて再生するときのリスニングモードです。

● ADVMOVIE (アドバンスドムービー) **5.1ch**

映画再生に適したモードです。特にドルビー、DTS エンコードの映画作品をこのモードで視聴するとより効果的で、映画館で映画を楽しんでいる雰囲気味わうことができます。

● ADVMUSIC (アドバンスドミュージック) **5.1ch**

音楽再生に適したモードで、通常のスtereo録音されたソース (CD など) に限らずドルビー、DTS エンコードされた音楽作品を再生するときにも効果的です。コンサートホールのような雰囲気味わうことができます。

● EXPANDED (エクスパンデッド) **5.1ch**

ドルビーサラウンドや2チャンネルで録音されているソースに対しては、5.1chサラウンドのような効果を実現します。また、ドルビーデジタルやDTS などの5.1ch サラウンドソフトを再生しているときも、より広がりのある音場を実現します。

● TV SURR. (TVサラウンド) **5.1ch**

テレビ放送のほとんどの割合を占めるモノラル信号やステレオ信号も、マルチチャンネルサラウンドで再生します。モノラル放送の古い映画などをマルチチャンネルサラウンドでお聴きになりたいときに効果的です。

● SPORTS (スポーツ) **5.1ch**

スポーツ中継の臨場感を体感できるモードです。会場の雰囲気をマルチチャンネルサラウンドで再現します。

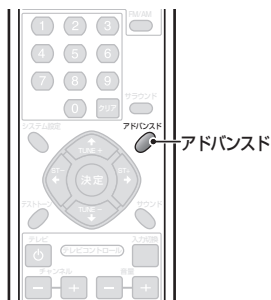
● GAME (ゲーム) **5.1ch**

ゲームのスピード感、躍動感をよりいっそう高めます。シューティングゲームやレーシングゲームなど、右へ左へ駆け巡るような流れのあるシーンの多いゲームに効果的です。

● 5 STEREO (5チャンネルステレオ) **5.1ch**

2chで収録された音声をステレオ音声のまま5.1チャンネルで再生するので、部屋のどの場所においてもステレオ感をお楽しみいただけます。

● FRTMOVIE (フロントサラウンドムービー)、FRTMUSIC (フロントサラウンドミュージック)、EXTPOWER (エクストラパワー) は、本機では使用できないモードです。



1.

アドバンスド



アドバンスドボタンを押す

押すたびに、アドバンスドサラウンドのモードが切り換わります。

メモ

- ▼ アドバンスドサラウンドモードを解除したいときは、**サラウンドボタン**を押してください。
- ▼ アドバンスドサラウンドモード表示中に**↑ ↓ ボタン**を押しても切り換えることができます。

スピーカー出力レベルを設定する

あるスピーカーからの音のみを大きくしたり小さくしたいときに、そのチャンネルのレベルを調整することができます。出力レベルはステレオ再生 (2.1ch) とマルチチャンネル再生 (5.1ch) の2種類に設定することができます。またここで調整を行った後に、「ルーム設定」(27ページ)を行うと、ここでの設定は無効になります。

再生している音声で調整する

ラジオやCD、DVDなどの音声を聞きながら、各スピーカーごとにお好みの音の大きさに調整する方法です。

1. 音声を再生し、サラウンドボタンまたはアドバンスボタンを押して、ステレオ再生 (2.1ch) かマルチチャンネル再生 (5.1ch) か調整したい方のリスニングモードを選ぶ (28～30ページ)

サラウンド



アドバンス



2. システム設定ボタンを押す



3. $\leftarrow \rightarrow$ で、「CH LEVEL」を選んで決定ボタンを押す



CH LEVEL

4. $\leftarrow \rightarrow$ で、出力レベルを調整するチャンネルを選択する



L(フロント左) ←
 ↓
 C(センター)
 ↓
 R(フロント右)
 ↓
 SR(サラウンド右)
 ↓
 SL(サラウンド左)
 ↓
 SW(サブウーファー) ←

5. $\uparrow \downarrow$ で、各チャンネルの出力レベルを調整する



チャンネルレベルは、 $\pm 10\text{dB}$ の範囲で調整できます。

6. 手順4から5を繰り返して各スピーカーのレベルを調整する

7. 決定ボタンを押す



決定

メモ


- ▼ ステレオ再生 (2.1ch) のときは、センターおよびサラウンドチャンネルの出力レベルを調整することはできません。

テストトーンで調整する

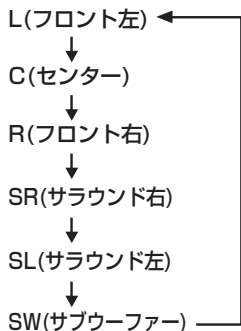
ザーというテストトーンを聞きながら、各スピーカーの音量バランスを調整する方法です。

- 


サウンドボタンまたはアドバンスドボタンを押して、ステレオ再生 (21ch) かマルチチャンネル再生 (5.1ch) が調整したい方のリスニングモードを選ぶ (28～30ページ)


- 

テストトーンボタンを押す
以下の順番で、各チャンネルのテストトーン(ザーという音)が、自動的に切り換わって出力されます。




- 調整しやすい音量にする



- 

↑ ↓ で、テストトーンが出力されているスピーカーの出力レベルを調整する

各スピーカーからの音が同じ大きさに聞こえるように調整してください。チャンネルレベルは ±10dB の範囲で調整できます。

- 

すべてのスピーカーの調整が終了したら、決定ボタンを押す

テストトーンが止まり、調整を終了します。

メモ

- ▼ サブウーファーのテストトーンは、周波数が低いので実際のレベルより小さく聞こえる場合があります。
- ▼ サブウーファーの調整は実際に音楽や映画ソースなどを使って適切な値に調整することをおすすめします。
- ▼ AUTO モードでテストトーンを出力したときは、再生しているソースによらず、5.1ch 用の設定値が表示され、調整することができます。
- ▼ ステレオ再生 (21ch) のときは、センターおよびワイヤレススピーカーからはテストトーンが出力されません。

スピーカーの距離を設定する

リスニングポジションから各スピーカーまでの距離を設定します。それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差に生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。ここで調整を行った後に、「ルーム設定」(27ページ)を行うと、ここでの設定は無効になります。

1. システム設定ボタンを押す

システム設定



2. ⇐⇒で、"DISTANCE"を選んで決定ボタンを押す



DISTANCE

3. ⇐⇒で、距離を設定するチャンネルを選ぶ



L(フロント左) ←
 ↓
 C(センター)
 ↓
 R(フロント右)
 ↓
 SR(サラウンド右)
 ↓
 SL(サラウンド左)
 ↓
 SW(サブウーファー) ←

4. ↑↓で、各スピーカーまでの距離を設定する



0.3m~9.0mの間を0.3m間隔で設定できます。
 お買い上げ時の設定は3.0mです。

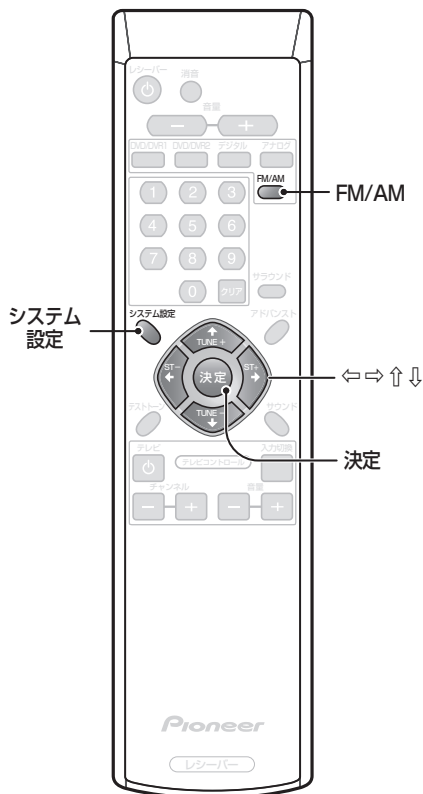
5. 手順3から4を繰り返して各スピーカーまでの距離を設定する

6. 決定ボタンを押す

決定

放送局を受信する

アンテナが接続されていないと、FM/AM放送を聞くことはできません。11～12ページを参照して、アンテナを接続してください。



1. **FM/AM ボタンを押す**
ラジオが聞ける状態になります。



FM	76.00
AM	522

FM/AMボタンを押すたびに、FMとAMが切り換わります。FM放送を聞くときはFMを、AM放送を聞くときはAMを選択してください。

2. **↑ ↓ を押して、聞きたい放送局に周波数を合わせる**



周波数の合わせ方(チューニング)には、以下の3通りがあります。

- **オートチューニング**

↑ ↓ (TUNE +/-) を押し続けて、周波数が動き始めたら指を離します。周波数が自動的に変化して、放送局を受信すると自動的に止まります。途中で止めるときは、もう一度 ↑ ↓ を押すか、**決定**ボタンを押します。

- **マニュアルチューニング**

↑ ↓ (TUNE +/-) を1回ずつ押します。周波数が1ステップずつ変化します。

- **ハイスピードマニュアルチューニング**

↑ ↓ (TUNE +/-) を押し続けます。ボタンを押している間、周波数が連続して変化し、指を離すと止まります。

FM 放送の雑音を減らす


遠い放送局や電波の弱い地域などで、FMのステレオ放送に雑音が多いときは、強制的にモノラルにして放送を聞きやすくします。

お買い上げ時は、放送局側に合わせて自動的にステレオとモノラルを切り換える"FM AUTO"に設定されています。


1.  FM/AM ボタンを押して、FM 放送を受信する

放送局の受信のしかたは、34ページを参照してください。

2.  システム設定ボタンを押す

3.  ⇐ ⇒ で "FM MODE" にしてから、決定ボタンを押す

FM MODE

4.  ↑ ↓ で "FM MONO" にしてから、決定ボタンを押す

FM MONO


表示部に、○ が点灯します。
FM ステレオ放送をステレオで受信するように設定する場合は、"FM AUTO" にします。

Q&A

Q: FM ステレオ放送なのに、ステレオにならない


→ 放送されているFMがモノラル放送か、電波の弱い場合は、ステレオ放送になりません。

AM 放送の雑音を減らす

1.  FM/AM ボタンを押して、AM 放送を受信する

放送局の受信のしかたは、34ページを参照してください。

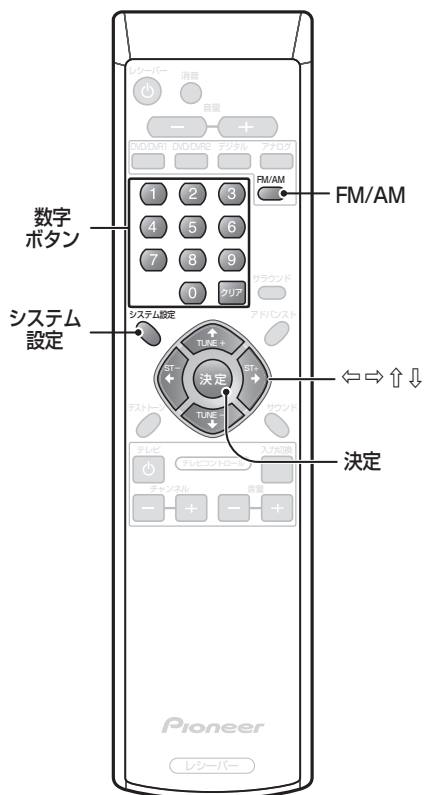
2.  システム設定ボタンを押す

3.  ⇐ ⇒ で "NOISECUT" を選んで決定ボタンを押す

NOISE CUT

4.  ↑ ↓ で "MODE" を選んで決定ボタンを押す

"MODE" は 1～3 から選ぶことができます。
雑音が一番小さい "MODE" を選んでください。



受信した放送局を記憶する

FM/AM放送合わせて30局まで、ステーション（記憶番号）に記憶することができます。

- FM/AM ボタンを押し、記憶したい放送局を受信する**

放送局の受信のしかたは、34ページを参照してください。
- システム設定ボタンを押す**
- ⇄ ⇄ で "ST.MEM." にしてから、決定ボタンを押す

ST . MEM.
- ↑ ↓ で、記憶するステーションを選ぶ

記憶するためのステーションは1～30まであります。

01 76.10 MHz
- 決定ボタンを押して記憶させる

記憶した放送局を呼び出す

各ステーション（記憶番号）に記憶させた放送局を聞くことができます。

1. **FM/AM ボタンを押す**
ラジオが聞ける状態にします。



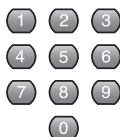
2. **← → で、記憶したステーションを選ぶ**



01 76.10 MHz

リモコンの数字ボタンで呼び出す

1. **ステーション番号と同じ数字ボタンを押す**



(例) ステーション 2 : **2**

ステーション 18 : **1** **8**

2. **決定ボタンを押す**
ダイレクトにステーションを選ぶことができます。
数字ボタンを押して2秒以上待つと、決定ボタンを押さなくても選ぶことができます。

メモ

- ▼ すでに記憶されているステーションに違う放送局を記憶させると、前の放送局は消去され、新しい放送局がステーションに記憶されます。

セリフやボーカルを強調して再生する

通常センタースピーカーから聞こえるセリフをTVから聞こえるように音像を移動したり、セリフやボーカルを明瞭に再生します。2段階の中から選ぶことができます。

1. サウンド ボタンを押す



2. ⇐⇒ で "DIALOGUE" を選んで決定ボタンを押す



DIALOGUE

3. ↑↓ で効果の強弱を選んで決定ボタンを押す



効果はOFF、MID(弱)、MAX(強)の中から選ぶことができます。OFFのときは通常の音質となります。

メモ

- ▼ 音像が移動する効果は、センタースピーカーから音声が出力されているときのみ得られます。
- ▼ 88.2/96kHzリニアPCM信号を再生しているときは、切り換えることはできません。

高音と低音を調整する

高音 (TREBLE) と低音 (BASS) の音質を、それぞれ調整することができます。

1. サウンド ボタンを押す



2. ⇐⇒ で "BASS" か "TREBLE" を選んで決定ボタンを押す



- 低音の音質を調整します

BASS

- 高音の音質を調整します

TREBLE

3. ↑↓ で音質のレベルを調整して決定ボタンを押す



調整範囲は、±3までです。

低音を強調する

低音だけを強調して迫力ある低音で再生します。音楽の低音再生に適した MUSIC モードと、映画の重低音再生に適した CINEMA モードのいずれかを選ぶことができます。

1. サウンド ボタンを押す



2. ⇐⇒ で "BASS MODE" を選んで決定ボタンを押す



BASS MODE

3. ↑↓ で最適なモードを選んで決定ボタンを押す



- OFF
通常の音質。
- MUSIC
重低音を補正して、臨場感を増やした設定で、音楽ライブのソフトにおすすめです。
- CINEMA
MUSICよりもさらに低音を強調した設定で、アクションシーンや戦闘、爆発音の多い映画ソフトにおすすめです。

ダイナミックレンジコントロールを設定する

ダイナミックレンジとは再生能力を表す用語で、どのくらい小さな音からどのくらい大きな音までをきちんと（小さな音はノイズに埋もれずに、大きな音は歪まずに）再生できるかを数値（dB）で表したものです。ダイナミックレンジコントロールとは、このダイナミックレンジを圧縮する機能です。音量を下げた映画を楽しむときなどは、ダイナミックレンジを圧縮すると微かな音も聞きやすくなり、映画をより一層楽しむことができます。

1. システム設定ボタンを押す



2. ⇐⇒ で、"DRC" を選んで決定ボタンを押す



DRC

3. ↑↓ で設定を選んで決定ボタンを押す



- DRC OFF
ダイナミックレンジを圧縮せずにソフトに収録されたまま再生します。
- DRC MID
ダイナミックレンジを少し圧縮します。
- DRC HIGH
ダイナミックレンジを最も圧縮します。

メモ

- ▼ 小さい音量で楽しむ場合は、DRC HIGH に設定することをお勧めします。
- ▼ ダイナミックレンジコントロールに対応しているドルビーデジタル音声やDTS音声にのみ効果があります。
- ▼ 再生しているディスクによっては、効果の少ないものもあります。

スリープタイマー

約 60 分後に自動的に電源が切れます。ラジオを聞きながら眠ったりするときに便利です。

1. システム設定ボタンを押す

システム設定



2. ←⇒で"SLEEP"を選んで決定ボタンを押す



SLEEP

3. ↑↓で"SLP ON"にしてから決定ボタンを押す

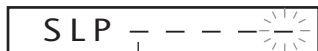


SLP ON

スリープタイマーが設定されると、が点灯します
途中で取り消す場合は、"SLP OFF" にします。

メモ

- ▼ スリープタイマー設定後に、上記手順1～2を行うことで、電源が切れるまでの時間を確認することができます。



→ 一目盛りは、12分を表しています。

表示部の明るさをかえる

ディスプレイユニットの表示部の明るさを変えることができます。

1. システム設定ボタンを押す

システム設定



2. ←⇒で"DIMMER"を選んで決定ボタンを押す



DIMMER

3. ↑↓で設定を選んで決定ボタンを押す



- LIGHT
購入時の表示部の明るさです。
- DARK
表示部が暗くなります。

CD タイプの設定

再生するCDの種類を選択することで、本機の設定を最適な環境にします。

ソース機器にてDTS-CDを再生しない場合は、この設定は必要ありません。

1. 電源をオフにする



電源が入っているときは、**レシーバー** ボタンを押します。

2. システム設定ボタンを押す



3. $\leftarrow \rightarrow$ で "CD TYPE" を選んで決定ボタンを押す



CD TYPE

4. $\uparrow \downarrow$ で設定を選んで決定ボタンを押す



● NORMAL

DTS-CDを再生すると曲頭部分でノイズが聞こえることがありますが、通常のCDの再生ではノイズが聞こえるようなことはありません。

● DTS-CD

DTS-CDを再生してもノイズが聞こえることはありませんが、通常のCDを再生すると曲頭部分が欠けて聞こえることがあります。

デュアルモノの設定

DVDレコーダーなどの機器で、録画した二カ国語放送を再生(ドルビーデジタル 1+1デュアルモノ音声にて)しているときや、地上/BS/CSデジタルチューナーなどで、二カ国語番組を視聴している(MPEG-2 AAC 1+1デュアルモノ音声にて)ときに、音声選択を行います。

1. システム設定ボタンを押す

システム設定



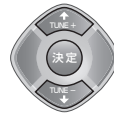
2. $\leftarrow \rightarrow$ で、"DUAL MONO" を選んで決定ボタンを押す



押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

DUAL MONO

3. $\uparrow \downarrow$ で設定を選んで決定ボタンを押す



● CH1 MONO

チャンネル1のみを再生します。

● CH2 MONO

チャンネル2のみを再生します。

● CH1/CH2

チャンネル1、2の音声を左右のフロントスピーカーから振り分けて再生します。

× モ

▼ MPEG-2 AAC、ドルビーデジタル、DTSの1+1デュアルモノ音声のときのみ音声を切り換えることができます。


Q&A

Q: デュアルモノ音声(二カ国語音声)を再生しているのに音声切り換わらない

→ 再生側の機器のデジタル出力設定が、リニアPCMに設定されていると、デュアルモノ音声にはなりません。ドルビーデジタルやMPEG-2 AACなどで出力してください。

→ アナログ接続の時は音声を切り換えることはできません。再生側の機器にて切り換えてください。

設定した内容をお買い上げ時の状態に戻す

1. **電源をオンにする**
レシーバー

 電源が切れているときは、レシーバーボタンを押して、本機の電源を入れます。
2. **ディスプレイユニットのSURROUND ボタンを押しながら、STANDBY/ON ボタンを押す**
 電源がオフ(スタンバイモード)になり、設定した内容がすべてお買い上げ時の状態に戻ります。

メモ

- ▼ 初期化すると、記憶していたすべてのメモリーが同時に消去されます。初期化するときには十分にご注意ください。

設置する場所

- 組み合わせて使用するテレビやステレオシステムの近くの安定した場所を選んでください。
- テレビやカラーモニターの上に本機を設置しないでください。カセットデッキなど、磁気の影響を受けやすい機器とは離して設置してください。

次のような場所は避けてください

- 直射日光のあたる所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- 極端に暑い所や寒い所
- 振動のある所
- ホコリの多い所
- 油煙、蒸気、熱があたる所（台所など）

熱を受けないように

本機をアンプなど、熱を発生する機器の上へのせないでください。ラックに入れる場合はアンプや他のオーディオ機器から出る熱を避けるため、アンプよりできるだけ下の棚に入れてください。

本機を使わないときは電源を切る

テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたままテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。ラジオの音声の場合も同様にノイズが入ることがあります。

製品のお手入れについて

- 本体は通常、柔らかい布で空拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞り、汚れを拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。
- アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、ゴムやビニール製品を長時間触れさせることも、キャビネットを傷めますので避けてください。
- 化学ぞうきんなどをお使いの場合は、化学ぞうきんなどに添付の注意事項をよくお読みください。
- お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったらチェックしてみてください。ちょっとした操作ミスが故障と思われがちです。また、本機以外の原因も考えられます。接続した機器などもあわせてお調べください。特にデジタル接続しているときは、デジタル出力の設定を十分にご確認ください。以下の項目に従って再度点検されても直らないときは、お買い上げの販売店またはお近くのサービスステーションにお問い合わせください。

症状	原因 / 対策	参照ページ
すべてに共通		
音が出ない。または特定のスピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> すべてのコードが完全に接続されていますか？接続のしかたを参照して、正しく接続してください。 スピーカーコードがショート（接触）していませんか？スピーカーコードの芯線をしっかりとねじり、もう一度スピーカー端子に接続し直してください。 ミュート状態になっていませんか？リモコンの消音ボタンを押してください。 音量がゼロになっていませんか？音量を調整してください。 プレーヤー（ソース機器）が対応していないフォーマットのソフトを再生していませんか？プレーヤーの取扱説明書を確認してください。 本機が対応していないフォーマット（MP3 など）の信号を入力していませんか？本機が対応しているフォーマットはドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、リニアPCMです。 	<p>10~16 ページ</p> <p>14~15 ページ</p> <p>22 ページ</p> <p>22 ページ</p>
ワイヤレススピーカーまたはセンタースピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> スピーカーは正しく接続されていますか？もう一度接続を確認してください。 ステレオ再生になっていませんか？リスニングモードを切り換えてマルチチャンネル再生 5.1ch にしてください。 ワイヤレススピーカーのTUNEDインジケータは点灯していますか？トランスミッターのチャンネル選択ボタンを押してチャンネルを切り換えるかトランスミッターの位置を動かしてみてください。 本体の音量が0 になっていませんか？ワイヤレススピーカーの音量は本体側で調節します。 	<p>12~15 ページ</p> <p>28~30 ページ</p> <p>25 ページ</p> <p>22 ページ</p>
テストトーンが出ないスピーカーがある。	<ul style="list-style-type: none"> スピーカーの接続が外れていませんか？ 確認してください。 2.1ch のモードを選択していませんか？すべてのスピーカーからテストトーンを出力したいときは 5.1ch のモードを選択してからもう一度やり直してください。 	<p>12~15 ページ</p> <p>28~30 ページ</p>
テストトーンがまったく出ない。	<ul style="list-style-type: none"> スピーカーの接続が外れていませんか？ 確認してください。 ミュート状態になっていませんか？リモコンの消音ボタンを押してください。 	<p>12~15 ページ</p> <p>22 ページ</p>

症状	原因 / 対策	参照ページ
設定した内容が消えてしまった。	<ul style="list-style-type: none"> • 本体の電源が入っているとき、強制的に電源コードを抜く、または停電などが起きると、設定した内容が消えてしまうことがあります。電源コードは、必ず本体の○STANDBY/ON ボタン、またはリモコンの○レシーバーボタンを押して、表示窓の[-OFF-]表示が消えてから抜いてください。特に他機器のACアウトレットから電源コードを接続しているときはご注意ください。 	
放送が聞こえない、聞き苦しい。	<ul style="list-style-type: none"> • アンテナは接続されていますか？アンテナを正しく接続してください。 • アンテナの向き、位置は悪くなっていませんか？アンテナの向きや位置を調整してください。 • トランスミッターとアンテナの距離が近いと受信状態に影響することがあります。距離を離してみてください。 • 電気器具（蛍光灯、ドライヤーなど）を使用していませんか？ノイズを発生させる機器の使用をやめてください。 	<p>11~12、 19ページ</p> <p>17ページ</p>
FM放送がステレオなのにステレオにならない。	<ul style="list-style-type: none"> • 表示部のモノインジケーターが点灯していませんか？"FM MODE"の設定をAUTOにしてください。 	35ページ
接続したデジタル機器からの音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> • 正しく接続されているか、もう一度確認してください。 • 接続した端子名と同じデジタル入力ボタンを押してください。 	<p>18ページ</p> <p>22ページ</p>
接続したアナログ機器（テレビなど）から音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> • 正しく接続されているか、もう一度確認してください。 • アナログボタンを押してください。 	<p>18ページ</p> <p>22ページ</p>
リモコンがきかない。	<ul style="list-style-type: none"> • リモコンの電池はなくなっていないですか？新しい電池に換えてください。このとき、設定したテレビメーカーコードが消える場合があります。23ページを参照して、もう一度やり直してください。 • 蛍光灯がリモコン受光部の近くにありませんか？蛍光灯をリモコン受光部から離してください。 • 7m以内、左右30°以内で、リモコンを本機に向けて操作してください。 • 本機とリモコンとの間に、信号を遮る障害物がありませんか？障害物を取り除くか、操作する場所を移動してください。 	<p>9ページ</p> <p>21ページ</p> <p>21ページ</p>
動作しない。	<ul style="list-style-type: none"> • 電源コードが外れていませんか？電源コードを正しく接続してください。 	16ページ

症状	原因 / 対策	参照ページ
電源が突然オフになった。 (再び電源を入れたときにエラーメッセージが表示される場合があります。)	<ul style="list-style-type: none"> • スピーカーコードがショート (接触) していませんか? スピーカーコードの芯線をしっかりとねじり、もう一度スピーカー端子に接続し直してください。 • レシーバーサブウーファーのまわりに十分なスペース (5ページ) が空いていますか? 通風がよくなるように設置をかえてみてください。 • 音量をもう少し小さくしてみてください。 	<p>14~15ページ</p> <p>5ページ</p> <p>22ページ</p>
ワイヤレススピーカー関係		
ワイヤレススピーカーの音声が途切れる。	<ul style="list-style-type: none"> • 本機の使用する電波は、高い周波数を使用しているため、光と同じように直進、反射、屈折、回折、干渉などの性質を持っています。そのため、場所により電波の強弱が起こり、音声が止まったりすることがあります。設置場所を変えてみてください。 • トランスミッターとワイヤレススピーカーの距離が離れ過ぎていませんか? 電波の届く範囲でご使用ください。 • 電気雑音の発生しやすいところで使用していませんか? 設置場所を変えてみてください。 	17ページ
ワイヤレススピーカーの音声が突然途切れるようになった。	<ul style="list-style-type: none"> • 近くに同じ周波数帯 (2.4GHz) を利用する無線通信機器である、コードレスフォン、Bluetooth、無線LAN、また電子レンジなどの機器が作動していませんか? 設置場所を変えてみてください。 	48ページ
トランスミッターから出力された音声をワイヤレススピーカーが受信できない。	<ul style="list-style-type: none"> • 障害物と反射物の影響で電波状態の良い位置と悪い位置があります。トランスミッターまたはワイヤレススピーカーの位置を少し動かしてみてください。 • トランスミッターとワイヤレススピーカーは対になっており、お互いに識別しています。別に購入されたトランスミッターとワイヤレススピーカーでは通信できない仕組みになっています。 	49ページ
トランスミッター周辺に設置されたテレビの画像が乱れることがある。	<ul style="list-style-type: none"> • トランスミッター周辺にアンテナが取り付けられているAV機器がありませんか? トランスミッターをAV機器のアンテナ入力端子から遠ざけてください。 	48ページ

- 静電気など、外部からの影響により本機が正常に動作しない場合があります。このようなときは、電源コードを一度抜いて再度差し込むことにより正常に動作します。

マルチチャンネル再生にならないときは

マルチチャンネル (5.1ch) 再生にならないときは、以下を確認してみてください。案外簡単なミスや勘違いをしていることもあります。

1. サラウンドボタンを押して、AUTOモードを選ぶ (28～29ページ)

再生している音声に応じたサウンドモードに自動で切り換わります。

2. テストトーンを出力してみる (32ページ)

すべてのスピーカーからテストトーン(ザーという音)が出力されていることを確認してください。テストトーンが出力されないスピーカーがあるときは、接続をもう一度確かめてから、もう一度テストトーンを出力してみてください。

3. 5.1chのリスニングモードを選択する (28～30ページ)

ステレオソースもマルチチャンネルにして再生します。

メモ

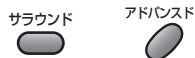
- ▼ 複数の音声収録されているDVDディスクの場合、再生している音声によって、ステレオ再生またはマルチチャンネル再生になりません。

こんな表示が出たときは

(本体表示部)

96K

88.2/96kHzリニアPCM信号を入力しているときに、以下のボタン操作を行うと表示されます。



(本体表示部)

MUTING

ミュート中にテストトーンボタンを押すと表示されます。

(本体表示部)

EXIT

各種メニューを表示中に、そのメニューを表示することが禁止されている信号が入力されたときに表示され、通常表示に戻ります。

(本体表示部)

EEP ERROR

お買い上げの販売店またはお近くのサービスステーションにお問い合わせください。

(本体表示部)

NO SPTYP

一度電源コードをコンセントから抜いて、もう一度入れ直してから、電源をオンしてください。それでも同じ表示が出る場合は、お買い上げの販売店またはお近くのサービスステーションにお問い合わせください。

電波に関するご注意

- 本機は盗聴防止機能を搭載しておりますが、傍受(無線通信内容を第三者が別の受信機で故意または偶然に受信すること)にご注意ください。本機は電波を使用している関係上、第三者が故意に傍受するケースも考えられます。機密を要する重要な通信や人命にかかわる通信には使用しないでください。
- 本機は電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として、技術基準適合証明を受けています。したがって本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本機は日本国内のみで使用できます。

本機は、2.4 GHzの周波数帯の電波を利用しています。この周波数の電波は、下記①に示すようにいろいろな機器が使用しています。また、お客様に存在がわかりにくい機器として下記②に示すような機器もあります。

① 2.4 GHzを使用する主な機器の例

- ・ コードレスフォン
- ・ コードレスファクシミリ
- ・ 電子レンジ
- ・ 無線ルーター
- ・ ワイヤレス AV 機器
- ・ ゲーム機のワイヤレスコントローラー
- ・ マイクロ波治療機器類
- ・ Bluetooth 対応機器

② 存在がわかりにくい2.4 GHzを使用する主な機器の例

- ・ 万引き防止システム
- ・ アマチュア無線局
- ・ 工場や倉庫などの物流管理システム
- ・ 鉄道車両や緊急車両の識別システム

これらの機器と本システムを同時に使用すると、電波の干渉により、音途切れて雑音のように聞こえたり、音が出なくなることがあります。このようなときは、本機のTUNEDインジケータが点滅または消灯しますが、電波干渉によるもので本機の故障ではありません。受信状況の改善方法としては以下の方法があります。

- ・ 電波を発生している相手機器の電源を切る
- ・ 干渉している機器の距離を離して設置する
- ・ トランスミッターのチャンネル選択ボタンで干渉されない他のチャンネルを選択する

次の場所では本機を使用しないでください。ノイズが出たり、送信/受信ができなくなる場合があります

- ・ 同じ周波数帯(2.4 GHz)を利用する無線通信機器であるBluetooth、無線LAN、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。(環境により電波が届かない場合があります)
- ・ ラジオから離してお使いください。(ノイズが出る場合があります)
- ・ テレビにノイズが出た場合、トランスミッターがテレビ、ビデオ、BSチューナー、CSチューナーなどのアンテナ入力端子に影響を及ぼしている可能性があります。トランスミッターをアンテナ入力端子から遠ざけて設置してください。

- 本機は、技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
- ・ 分解/改造すること。
- ・ 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと。

2.4 DSSS



- ① 「4」 想定される干渉距離(約40m)を表します
- ② 「DS」 変調方式を表します
- ③ 「2.4」 GHz帯を使用する無線設備を表します

- 本機の使用する周波数帯域(2.4GHz)では、無線通信機器であるBluetooth、無線LAN、また電子レンジなどの機器の他、工場、製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する)及び、特定小電力無線局が同じように利用して運用されています。

本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。

万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して電波障害の事例が発生した場合、すみやかにその場で本機の使用を中断してください。

使用範囲について

- ご家庭内での使用に限ります。
(通信の環境により伝送距離が短くなる場合があります)

次のような場合、電波状態が悪くなったり電波が届かなくなることが原因で、音声が届かなくなったり停止したりします

- 鉄筋コンクリートや金属の使われている壁や床を通して使用する場合。
- 大型の金属製家具の近くなど。
- 人混みの中や、建物障害物の近くなど。
- 同じ周波数帯 (2.4GHz) を利用する無線通信機器である Bluetooth、無線 LAN、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。
- 集合住宅 (アパート・マンションなど) にお住まいで、お隣で使用している電子レンジ設置場所が本機に近い場合。尚、電子レンジは、使用していなければ電波干渉はおこりません。

電波の反射について

- ワイヤレススピーカーに届く電波には、トランスミッターから直接届く電波 (直接波) と、壁や家具、建物などに反射してさまざまな方向から届く電波 (反射波) があります。これにより、障害物と反射物とのさまざまな反射波が発生し、電波状態の良い位置と悪い位置が生じ、音声がうまく受信できなくなることがあります。このようなときは、ワイヤレススピーカーの場所を少し動かしてみてください。トランスミッターとワイヤレススピーカーの間を人間が横切ったり、近づいたりすることによっても、反射波の影響で音声が途切れたりすることがあります。

注意

- ◆ お客さま、または第三者使用によるこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

安全にお使いいただくために

- 高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは使用しない。
電子機器に誤動作するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。

ご注意ください電子機器の例

補聴器、ペースメーカー、その他医療用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他自動制御機器など。

ペースメーカー、その他医療用電気機器をご使用される方は、該当の各医療用電気機器メーカーもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

- 航空機器や病院など、使用を禁止された場所では使用しないでください。
電子機器や医療用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。医療機関の指示に従ってください。

本製品は家庭用オーディオ機器です。下記の注意事項を守ってご使用ください。

1. 一般家庭用以外での使用 (例: 店舗などにおけるBGMを目的とした長時間使用、車両・船舶への搭載、屋外での使用など) はしないでください。
2. 音楽信号の再生を目的として設計されていますので、測定器の信号 (連続波) などの増幅用には使用しないでください。
3. ハウリングで製品が故障する恐れがありますので、マイクロフォンを接続する場合はマイクロフォンをスピーカーに向けたり、音が歪むような大音量では使用しないでください。
4. スピーカーの許容入力を超えるような大音量で再生しないでください。

S26_Ja

保証とアフターサービス

保証書（別添）について

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から1年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後8年です。

性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い上げの販売店へご依頼ください。また、ご転居されたりご贈答品などでお買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、修理受付センターにご相談ください。

所在地、電話番号は裏表紙の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼される時

44～47ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

トランスミッターまたはワイヤレススピーカーの修理を依頼される時は、トランスミッターとワイヤレススピーカーを2つ1組としてご依頼ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名：ホームシアターシステム
- 型番：HTP-06
- お買い上げ日
- 故障の状況(できるだけ詳しく)
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標(建物、公園など)

■ 保証期間中は：

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■ 保証期間が過ぎているときは：

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

■ お願い：

修理のために本機をお持ち込みいただく際は、部分的な故障と思われる場合でもシステム全体での動作確認が必要となるため、全機器をお持ち込み願います。

用語解説

■ドルビーデジタル



DVDの標準音声タイプのことです。モノラルやステレオで記録されているソフトもあれば、現在最も主流となっている5.1chサラウンドで記録されているソフトもあります。ドルビーデジタル(5.1chサラウンド)で記録されているソフトとは、5つのチャンネル個別にそれぞれのシーンに合った音声記録されていて、サブウーファーから出力される低音も記録されているソフトのことをいいます。

■ドルビープロロジック

2chサラウンド信号や2chステレオ信号をマルチチャンネルサラウンドで再生するための技術です。2chサラウンド信号については圧縮された信号を忠実にデコード(再生)し、2chステレオ信号については2チャンネル分の信号からセンター、サラウンドチャンネルの信号を作り出します。ただし、この再生方式ではサラウンドチャンネルはモノラルであるため、ワイヤレススピーカーからはモノラルで音声出力されます。

■ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIは、ドルビープロロジックをさらに改良し、ステレオ音声を5.1chに拡張して再生するためのマトリックスデコード技術です。ステアリングロジック回路により、全可聴帯域のメイン5chを作り出します。CDのような通常のステレオ音楽素材に対してもより優れた立体音場効果、包囲感、より明確な定位をもたらし、ドルビーサラウンドエンコードされた素材はディスクリット5.1chに匹敵する移動感をも実現できます。

■プロロジックとプロロジックIIの違い

	プロロジック	プロロジックII
効果的なソース	ドルビーサラウンドエンコード処理されたステレオ音声	すべてのステレオ音声
デコードチャンネル数	4.1ch (サラウンド) モノラル)	5.1ch (サラウンド) ステレオ)
周波数特性	サラウンド 7kHz帯域制限	全チャンネル フルバンド

■DTS



DTSとはDigital Theater Systems, Inc.社の5.1chデジタル・サラウンド録音再生方式のことです。DTSデジタル・サラウンドで記録されたDVDソフトも、ドルビーデジタル(5.1chサラウンド)で記録されているソフトと同様に5.1chで音声を楽しむことができます。

■MPEG-2 AAC (Advanced Audio Coding)



MPEG-2 オーディオの標準方式のひとつで、BSデジタル放送や地上デジタル放送で採用されている音声符号化規格です。低ビットレートでかつ高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。以下が米国特許番号です。

08,937,950	5,481,614
5848391	5,592,584
5,291,557	5,781,888
5,451,954	08/039,478
5,400,433	08/211,547
5,222,189	5,703,999
5,357,594	08/557,046
5,752,225	08/894,844
5,394,473	5,299,238
5,583,962	5,299,239
5,274,740	5,299,240
5,633,981	5,197,087

5,297,236	5,490,170
4,914,701	5,264,846
5,235,671	5,268,685
07/640,550	5,375,189
5,579,430	5,581,654
08/678,666	05-183,988
98/03037	5,548,574
97/02875	08/506,729
97/02874	08/576,495
98/03036	5,717,821
5,227,788	08/392,756
5,285,498	

仕様

レシーバーサブウーファー部 (SX-06SW)

■ アンプ部

実用最大出力 (JEITA)

フロント (1 kHz、10 %、3 Ω)	110 W x 2
フロント (1 kHz、10 %、6 Ω)	60 W x 2
センター (1 kHz、10 %、3 Ω)	110 W
センター (1 kHz、10 %、6 Ω)	60 W
サブウーファー (200 Hz、10 %、3 Ω)	70 W
サブウーファー (200 Hz、10 %、6 Ω)	60 W

■ チューナー部

FM チューナー部	
受信周波数	76.0 ~ 90.0 MHz
アンテナ	75 Ω 不平衡型
AM チューナー部	
受信周波数	522 kHz ~ 1,629 kHz
アンテナ	ループアンテナ (付属)

■ サブウーファー部

型式	バスレフ式フロア型
使用スピーカー	
ウーファー	16 cm (コーン型)
公称インピーダンス	6 Ω
再生周波数帯域	25 ~ 1000 Hz
最大入力	60 W (JEITA)

■ 入力端子

光デジタル入力	
角型光ジャック	2
同軸デジタル入力	
RCA 端子	1
アナログ入力	
RCA 端子	1

■ 電源部

電源電圧	AC100 V、50/60 Hz
消費電力	50 W
スタンバイ消費電力	0.19 W

■ その他

レシーバーサブウーファー部	
外形寸法	200 X 375 X 437 mm (幅) X (高さ) X (奥行き)
質量	9.0 kg
ディスプレイユニット部	
外形寸法	214 X 65 X 60.5 mm (幅) X (高さ) X (奥行き)
質量	0.22 kg

許容動作温度	+5 °C ~ +35 °C
許容動作湿度	5 % ~ 85 % (結露のないこと)

■ 付属品

リモコン	1
単3形乾電池 (AA/R6P)	2
AM ループアンテナ	1
FM 簡易アンテナ	1
同軸ケーブル	1
光ケーブル	2
ディスプレイユニット	1
電源コード	1
ディスプレイケーブル	1
取扱説明書	

センタースピーカー部 (S-B06C)

型式	密閉式ブックシェルフ型 防磁設計 (JEITA)
使用スピーカー	
フルレンジ	7.7 cm (コーン型)
公称インピーダンス	6 Ω
再生周波数帯域	75 ~ 20,000 Hz
最大入力	100 W (JEITA)
外形寸法	270 X 90 X 100 mm (幅) X (高さ) X (奥行き)
質量	0.8 kg

■ 付属品

滑り止めパッド (大)	4
滑り止めパッド (小)	4
スピーカーコード (4 m / 赤色のフロントスピーカー用)	1
(4 m / 白色のフロントスピーカー用)	1
(4 m / 緑色のセンタースピーカー用)	1

ワイヤレススピーカーシステム部 (XW-06)

一般

型式

.... デジタルワイヤレススピーカーシステム
(トランスミッター/ワイヤレススピーカー)

ワイヤレススピーカー

電源 AC 100 V、50/60 Hz

消費電力 30W

アンプ

実用最大出力 (JEITA) 10W/ch
(1 kHz, THD 10 %, 4 Ω)

スピーカーユニット 7cm (コーン型) X 2

質量 2.9 kg

外形寸法 461.5 X 176.5 X 95 mm
(幅) X (高さ) X (奥行き)

トランスミッター

ACアダプター

電源 AC 100 V、50/60 Hz

定格 9 VA

定格出力 DC12 V/300 mA

消費電力 (本体のみ) 2W

入力 RCA ジャック

質量 0.3 kg

外形寸法 166 X 56 X 112 mm
(幅) X (高さ) X (奥行き)

■ 付属品

オーディオコード	1
ACアダプター	1
電源コード	1
コーションラベル	1

- 保証書は、HTP-06の外箱に貼ってあります。
- 本機の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

本機は一般家庭用機器として作られたものです。一般家庭用以外(たとえば飲食店等での営業用の長時間使用、車輛、船舶への搭載使用)で使用し、故障した場合は、保証期間内でも有償修理を承ります。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所へのおもいやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。

特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉めたり、ヘッドホンで聞くのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



サービスステーションリスト

サービスステーションへの電話は、裏表紙の修理受付センターでお受けします。
(沖縄県の方は沖縄サービスステーションでお受けします)

●認定店は、不在の場合もございますので、持ち込み希望のお客様は、修理受付センターにご確認ください。

●北海道地区		受付 月～金 9:30～18:00 (土・日・祝・弊社休業日は除く) ☆拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)
☆札幌サービスセンター	FAX 011-611-5694	〒064-0822 札幌市中央区北2条西20-1-3 クワザビル
旭川サービス認定店	FAX 0166-55-7207	〒070-0831 旭川市旭町1条1丁目438-89
帯広サービス認定店	FAX 0155-23-7757	〒080-0015 帯広市西5条南2丁目1-1
函館サービス認定店	FAX 0138-40-6473	〒041-0811 函館市富岡町2-18-7
●東北地区		受付 月～金 9:30～18:00 (土・日・祝・弊社休業日は除く) ☆拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)
☆仙台サービスステーション	FAX 022-375-4996	〒981-3121 仙台市泉区上谷刈石田20
山形サービス認定店	FAX 023-615-1627	〒990-0023 山形市松波1-8-17
盛岡サービスステーション	FAX 019-659-1895	〒020-0051 盛岡市下太田下川原153-1
青森サービス認定店	FAX 017-735-2438	〒030-0821 青森市勝田2-16-10
八戸サービス認定店	FAX 0178-44-3351	〒031-0802 八戸市小中野4-3-34
秋田サービス認定店	FAX 018-869-7401	〒010-0802 秋田市外旭川字権の目346-1
郡山サービス認定店	FAX 024-991-7466	〒963-8861 郡山市鶴見町1-9-25 クレールアヴェニュー伊藤第2ビル1F D号
●関東・甲信越地区(1)		受付 月～土 9:30～18:00 (日・祝・弊社休業日は除く)
世田谷サービスステーション	FAX 03-3419-4234	〒155-0032 世田谷区代沢4-25-9
墨田サービスステーション	FAX 03-3621-7610	〒130-0011 墨田区石原4-27-9 中島ICハイツ1F
城北サービスステーション	FAX 03-3550-3625	〒175-0083 板橋区徳丸4-11-4
多摩サービスステーション	FAX 042-524-5947	〒190-0003 立川市栄町4-18-1 エクセル立川1F
●関東・甲信越地区(2)		受付 月～金 9:30～18:00 (土・日・祝・弊社休業日は除く) ☆拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)
新潟サービスステーション	FAX 025-241-1879	〒950-0913 新潟市鏡1-5-23
佐渡サービス指定店 横山電機商会	FAX 0259-63-3400	〒952-1209 佐渡市金井町千種1158-1
☆千葉サービスセンター	FAX 043-207-2555	〒263-0014 千葉市稲毛区作草部町1369-1 椎の実ハイツ1F
つくばサービス認定店	FAX 0298-58-1369	〒305-0045 つくば市梅園2-2-6
水戸サービス認定店	FAX 029-248-1306	〒310-0844 水戸市住吉町307-4
☆埼玉サービスセンター	FAX 048-651-8030	〒331-0812 さいたま市北区宮原町1-310-1
川越サービス認定店	FAX 049-233-6581	〒350-0804 川越市下広谷1128-11
宇都宮サービス認定店	FAX 028-657-5882	〒321-0912 宇都宮市石井町3373-1
群馬サービス認定店	FAX 0270-22-1859	〒372-0801 伊勢崎市宮子町1191-17 パサージュ808 伊勢崎101号
☆神奈川サービスセンター	FAX 045-943-3788	〒224-0037 横浜市都筑区茅ヶ崎南2-18-1 ヘルデユール茅ヶ崎
横浜北サービス認定店	FAX 045-943-3155	〒224-0036 横浜市都筑区勝田南1-19-17
厚木サービス認定店	FAX 046-224-7724	〒243-0807 厚木市金田339-1 金田コーポフロンテア201
三宅島サービス指定店 勝見電機	TEL 04994-6-1246	〒100-1211 三宅村大字坪田
松本サービスステーション	FAX 0263-48-2768	〒390-0852 松本市大字島立180-5
長野サービス認定店	FAX 026-229-5250	〒380-0935 長野市中御所1-24
甲府サービス認定店	FAX 055-228-8003	〒400-0035 甲府市飯田4-9-14
●中部地区		受付 月～金 9:30～18:00 (土・日・祝・弊社休業日は除く) ☆拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)
☆名古屋サービスセンター	FAX 052-532-1148	〒451-0063 名古屋市中区押切2-8-18
津サービス認定店	FAX 059-213-6712	〒514-0821 津市垂水522-5
岡崎サービス認定店	FAX 0564-33-7080	〒444-0931 岡崎市大和町字荒田36-1 大和ビレッジ B-1
岐阜サービス認定店	FAX 058-274-5256	〒500-8356 岐阜市六条江東1-1-3
静岡サービスステーション	FAX 054-237-5691	〒422-8034 静岡市駿河区高松1-6-5
沼津サービス認定店	FAX 055-967-8455	〒410-0876 沼津市北今沢12-7
浜松サービス認定店	FAX 053-422-1401	〒435-0042 浜松市篠ヶ瀬町415 ヒラモデルナ5号
金沢サービスステーション	FAX 076-269-4758	〒920-0362 金沢市古府1丁目178
富山サービス認定店	FAX 076-425-3027	〒939-8211 富山市二口町1-7-1
福井サービス認定店	FAX 0776-27-1768	〒910-0001 福井市大願寺3-5-9

●関西地区

☆大阪サービスセンター		FAX 06-6310-9120	〒564-0052	吹田市広芝町5-8
大阪南サービス認定店		FAX 0722-75-2625	〒593-8322	堺市津久野町1-8-15 ローズマンション1F
大阪北サービス認定店		FAX 06-6453-5666	〒531-0076	大阪市北区大淀中3-9-4
奈良サービス認定店		FAX 0742-36-8713	〒630-8132	奈良市大森西町21-26
和歌山サービス認定店		FAX 0734-46-3026	〒641-0021	和歌山市和歌浦東3-1-25
京都サービスステーション		FAX 075-352-2588	〒600-8322	京都市下京区西洞院通五条東南角小柳町513-2 五条久保田ビル1F
福知山サービス認定店		FAX 0773-24-5375	〒620-0055	福知山市篠尾新町2-74 カマハチマンション
神戸サービス認定店		FAX 078-265-0832	〒651-0093	神戸市中央区二宮町1丁目10-1 ローレル三宮ノースアベニュー1F
姫路サービス認定店		FAX 0792-51-2656	〒671-0224	姫路市別所町佐土4-2

●中国地区

☆広島サービスステーション		FAX 082-248-9939	〒730-0041	広島市中区小町2-30 第二有楽ビル1F
徳山サービス認定店		FAX 0834-33-5759	〒745-0006	周南市花島町3-11 森広事務所1F
福山サービス認定店		FAX 0849-31-2791	〒720-0815	福山市野上町3-12-9
岡山サービスステーション		FAX 086-244-8748	〒700-0975	岡山市今8-15-21
松江サービス認定店		FAX 0852-22-7779	〒690-0017	松江市西津田4-5-40 (有) テクピット内
鳥取サービス認定店		FAX 0857-29-1290	〒680-0061	鳥取市立川町4-5-240-1

●四国地区

高松サービスステーション		FAX 087-861-4841	〒760-0078	高松市今里町1-16-1
徳島サービス認定店		FAX 088-669-6076	〒770-8023	徳島市勝占町中須92-1 大松ジョリカ地下1階103号
高知サービス認定店		FAX 088-802-3321	〒780-0051	高知市愛宕町3-12-13 晃栄ビル1F
松山サービス認定店		FAX 089-951-6270	〒791-8067	松山市古三津5-10-35 高船ビル1F

●九州地区

☆福岡サービスステーション		FAX 092-412-7460	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南2-12-3
博多サービス認定店		FAX 092-461-1643	〒812-0006	福岡市博多区上牟田2-6-7
長崎サービス認定店		FAX 095-849-4606	〒852-8145	長崎市昭和1丁目12-10 クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店		FAX 096-331-3323	〒862-0918	熊本市花立5丁目14-17
大分サービス認定店		FAX 097-549-2420	〒870-0851	大分市大石町5丁目1-1
北九州サービスステーション		FAX 093-951-1748	〒802-0011	北九州市小倉北区重住3-1-20
鹿児島サービスステーション		FAX 099-224-7692	〒892-0841	鹿児島市照国町3-21 第二大見ビル2F
宮崎サービス認定店		FAX 0985-27-3136	〒880-0821	宮崎市浮城町98-1

●沖縄地区(沖縄県のみ)

沖縄サービスステーション		TEL 098-879-1910 FAX 098-879-1352	〒901-2122	浦添市勢理客4-18-1 トヨタマイカーセンター3F
--------------	--	--------------------------------------	-----------	----------------------------

平成17年5月現在

記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

VOL.013

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)及び特定小電力無線局(免許を要さない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに使用周波数を変更するか又は電波の発射を停止したうえ、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置など(例えば、パーティションの設置など)についてご相談してください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先) カスタマーサポートセンター : ☎0070-800-8181-22

<http://www.pioneer.co.jp/support/>

ご相談窓口 ・ 修理窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い(取り付け・組み合わせなど)については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

なお、修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな?と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名 ②ご購入日 ③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

- パイオニアホームページ : お客様サポート <http://www.pioneer.co.jp/support/index.html>
(商品についてよくあるお問い合わせ・カタログの請求・メールマガジン登録のご案内など)

<下記窓口へのお問い合わせの時のご注意>市外局番「0070」で始まる☎711-0120及び「0120」で始まる☎711-0120は、PHS、携帯電話などからは、ご使用できません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

商品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

カスタマーサポートセンター (全国共通フリーフォン)

受付 月曜～金曜 9:30～17:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～17:00 (弊社休業日は除く)

- 家庭用オーディオ/ビジュアル商品のご相談窓口およびカタログのご請求窓口 ☎ 0070-800-8181-22
一般電話 【一般電話】03-5496-2986
●ファックス受付 03-3490-5718

部品のご購入についてのご相談窓口

- 部品(付属品、リモコン、取扱説明書など)のご購入については、部品受注センターへお問い合わせください。

部品受注センター

受付 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～17:00 (弊社休業日は除く)

電話(フリーダイヤル) ☎0120-5-81095 ファックス(フリーダイヤル) ☎0120-5-81096
一般電話 0538-43-1161

修理についてのご相談窓口

- お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合は、修理受付センターへ(沖縄の方は、沖縄サービスステーションへ)

修理受付センター (沖縄県を除く全国)

受付 月曜～金曜 9:30～19:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

電話(フリーダイヤル) ☎0120-5-81028 グローバルオーディオ ファックス(フリーダイヤル) ☎0120-5-81029
一般電話 03-5496-2023

沖縄サービスステーション (沖縄県のみ)

受付 月曜～金曜 9:30～18:00 (土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く)

一般電話 098-879-1910 ファックス 098-879-1352

VOL.013

愛情点検



長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。
こんな症状はありませんか？

- ・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
- ・電源コードにさげめやひび割れがある。
- ・電気が入ったり切れたりする。
- ・本体から異常な音、熱、臭いがする。



すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いて、故障や事故防止のため電気店またはお近くのパイオニアサービスステーションに点検(有料)をご依頼ください。